2024年7月20日（土）

市指定史跡「野嵩スディバナビラ石畳道」文化講座

野嵩を知ろう！

＝古老に学んだ、野嵩の文化財調査46年の成果を紹介します！＝

○ はじめに！

・ 野嵩の「歴史文化遺産マップ」！

・ 野嵩の「戦前の集落」のイメージ図！

1 宜野湾市と野嵩のあらまし！

① 宜野湾市の現在から過去へのいざない！

② 文献資料にみる宜野湾市域の「村」の名称！

③ 宜野湾市域の「村」の移り変わり！

＝ 質疑応答 ＝

2．野嵩の文化財調査46年のあらまし！

① 文化財調査のあらまし［一部］！

② 「文化財情報図」！

③ 「遺跡＝埋蔵文化財包蔵地」！

④ 「地名：集落，交通，水利，自然，生業，公共施設，信仰，戦争，土地，一族・その他」！

⑤ 「言語：方言」！

⑥ 「民話」と「芸能」，その他！

＝ 質疑応答 ＝

3．野嵩の「スディバナビラ」について！

① 首里王府の「歴史の道＝宿道」！

② 地域住民の「生活の道＝里道」！

○ おわりに！

・野嵩の古老の方々が言い伝えたい「記憶の思い」とは？

＝ 質疑応答 ＝

呉屋義勝（宜野湾市教育委員会 元文化課長）

＊【本講座の資料は、宜野湾市教育委員会発行の各種刊行物を多用しています！】

○　はじめに！

・　野嵩の「歴史文化遺産マップ」！

8 ミーガー跡

首里王府からの指令で新松川(屋号)の祖先が遣ったと伝えられています。水量は豊富で収容所時代にも多くの人が利用しました。市道建設で埋め立てられ、現在は碑と祠が建てられています。

9 野嵩慰霊之塔

1977(昭和52)年12月に建立されました。この塔には戦没者307柱が祀られています。慰霊祭は毎年「慰霊の日」後の日曜日に行われています。

10 トゥニムートゥ

集落の守り神である天の神、地の神、龍宮の神が祀られており、旧暦8月15日のウチチウマチーの際に祈願します。

野嵩 歴史文化遺産マップ

1 ウガンヌカタ

集落の東の神であると言われ、旧暦8月15日のウチチウマチーの際に祈願しました。行事の際には神酒をもらいにウガンヌカタへ行きました。

2 野嵩石畳道

琉球王国時代に整備された首里から中城間切への公道(宿道)の一部で、野嵩区から我謝橋までの高低差34m、長さ120mの急坂に敷られた石畳道です。護佐丸と阿麻和利の戦いに由来をもつスディパナビラという別名も持ち、現在は約60mが残っています。市指定史跡です。

3 ハウスナンバー32

収容所を管理する米軍が付けた番号で、住所のような役目をはたしました。番号は163番までありましたが、現在は32番のみ残っています。

4 MP事務所として使われた家

MP(憲兵)隊事務所として使用されていた屋敷で、MP隊がよそへ移動すると警察署として利用されました。ピンプンの上に米兵がビール瓶を置き、銃で撃って遊んだそうです。

5 野嵩クシヌカー

集落東側にある石積みのムラガーで、生活用水・ウブミジ(産水)・ワカミジ(若水)を汲む場所として人々の暮らしを支えてきました。収容所時代は軍作業の洗濯場でした。市指定史跡です。

6 メーヌカー

集落南側にある石積みのムラガーで、生活用水・ウブミジ(産水)・ワカミジ(若水)を汲む場所として人々の暮らしを支えてきました。

11 根屋の拝所

集落に古くからある家の拝所です。マールアシビの際に祈願します。

12 ヌンドゥンチ

野嵩ノ口を離出した家で、マールアシビ行列の出発地点。ヌンドゥンチとその斜め向かいの東中加(屋号)の仏壇を拝んでから道ジュネーが始まりました。マールアシビの衣装や旗頭、ミルク(弥勒)等を管理していました。屋敷の東側にウカミヤー(御神屋)があります。

14 ちなひちもうい(ナカミチ)

もとは、旧暦6月の綱引きの際に、士気を高めるために踊られていた女性たちの踊りです。隊列を組み速いテンポで太鼓を打ち、歌を唄いながら足さばきに到るまで動作を合わせて踊るような例は他ムラにはほとんどなく、近隣から多くの人々が見物に訪れました。1991(平成3)年に復活させて以降は、ひとつの行事として現在まで継承されています。当日の夕方はテークドゥール(太鼓灯籠)を先頭に、鋼鐵・ほら貝などの鳴り物、女性達と続いて道ジュネーを行い、かつて綱引きを行っていたナカミチの旧カナチグチ辺りで踊りを披露します。夜になると野嵩あしび庭で踊りを披露します。

マールアシビ(豊年祭)

子・午年の旧暦8月15日に、アシビナー(現在の「野嵩あしび庭」)で行われます。1860年頃から始まったと伝えられ、開催された年から数えて次に開催されるまで7年あることから、「シチネンマール(7年廻る)」「マーラシ」とも呼ばれています。当日は祈願を終えた後、道ジュネーを行い、舞台上では組踊や歌劇等様々な舞踊が披露されました。かつては男性のみの配役でしたが、現在は女性も参加し盛大に開催されています。

※⑮⑯⑱は、現存していません。

※私有地にある場合もありますので、見学の際は注意しましょう。

7 ウフグディ

中城村新垣に向いて牛が座っているように見える石灰岩で、名前の由来はウフ(大きい)グディ(牡牛)と伝えられます。「普天間川をはさんで、宜野湾の野嵩にはウフグディが中城の新垣にはガンワーがあって、大昔、両者は臥えあっていた」等の話が伝わっています。戦後、野嵩墓園に移されました。集落の南の神と言われています。

13 地頭火の神

地域の方によると、この地頭火の神は各家庭に祀られている火の神と同じで、野嵩集落の火の神を祝っているそうです。以前はトゥングヮーグムイに隣接していました。

15 タキジョウガマ

大人の目線ほどの高さまでアーチ型の石積みがされた入り口を、少し下りると横穴になっていました。周囲から雨水が流れ込みましたが、戦時中にはクシングカリ(後村梁)の避難壕として利用されました。

16 ターバルガマ

タキジョウガマよりも広く、長さ 1,300m もありました。中は地下水が流れ湿度が高かったので、若い女性はガマの中でパナマ帽を編みました。また、村芝居の練習ははじめガマで行い、上手くなってからムラヤー(村屋)で行ったそうです。戦時中にはメンダカリ(前村梁)の避難壕として利用されました。

17 野嵩タマタ原遺跡

グスク時代から現代までの継続した畑跡が確認されました。小さい穴が列状で等間隔に並ぶ様子から、穀類の種を蒔く穴かイモなどの作物を植える苗の移作痕だと考えられます。

18 野高上後原古墓群

近世から戦後まで使用された古墓群で堀込墓や亀甲墓が混在しています。墓前の付替した針の束が見つかるなど、チンダンブクルの証明となる出土品もありました。※チンダンブクル:銭貨と束にした縫い針を小さな袋に入れて副葬品とするもの。「シマの話」佐喜眞興英著にも記載あり。

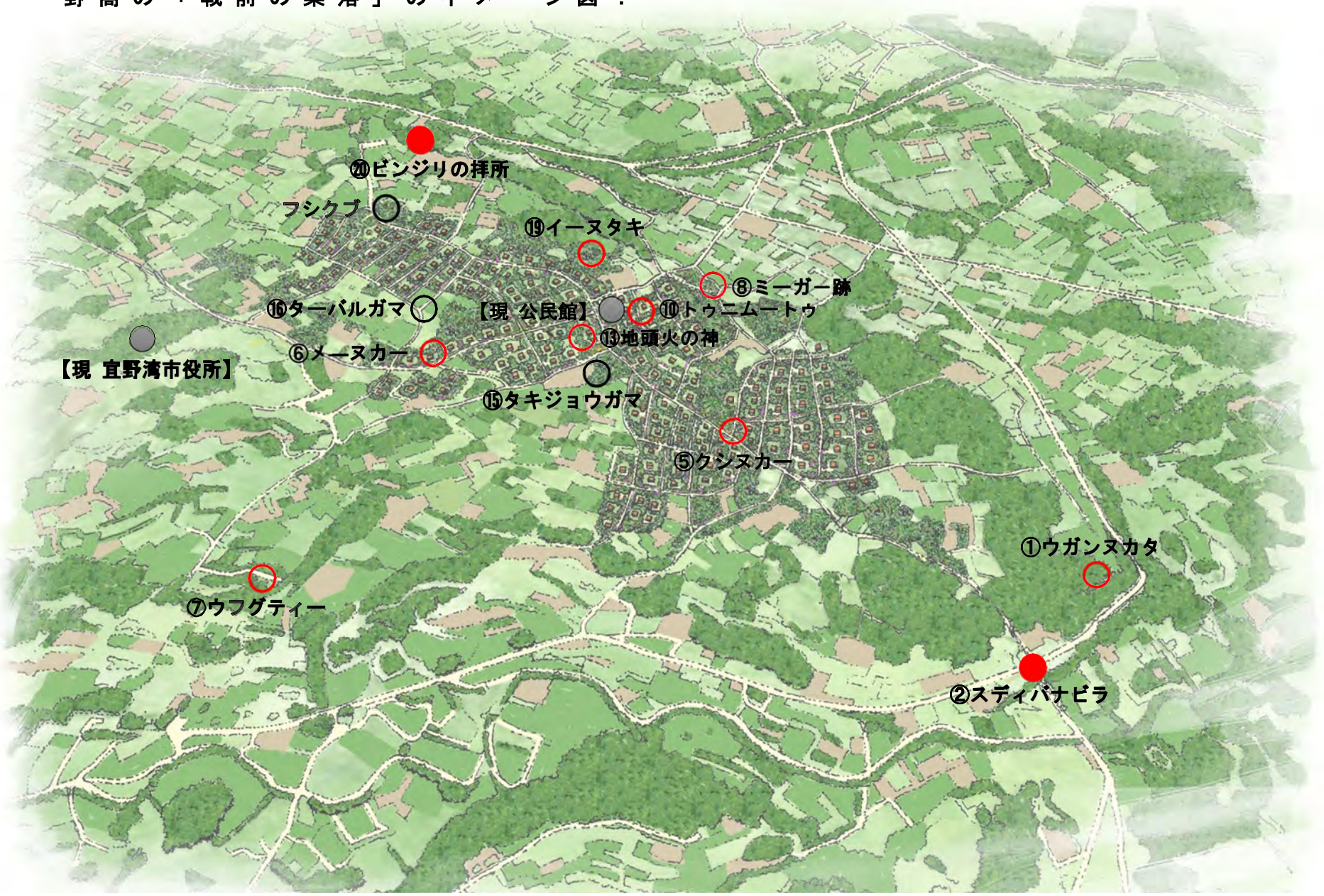
19 イーヌタキ

集落西側の山原にある拝所で集落の北の神と言われています。1982(昭和57)年の改修でコンクリート製の祠が建てられました。マールアシビの前には出演者がイーヌモーに上って歌い、ムラヤーまで声が届くかを調べて配役を決めるピーシラビ(声調べ)が行われました。

20 ピンジリの拝所

集落の西の神であると言われています。元は山林でしたが普天間飛行場の建設用に採石され、大きな窪地となりました。埋め土をして平らにし、現在は駐車場となっています。

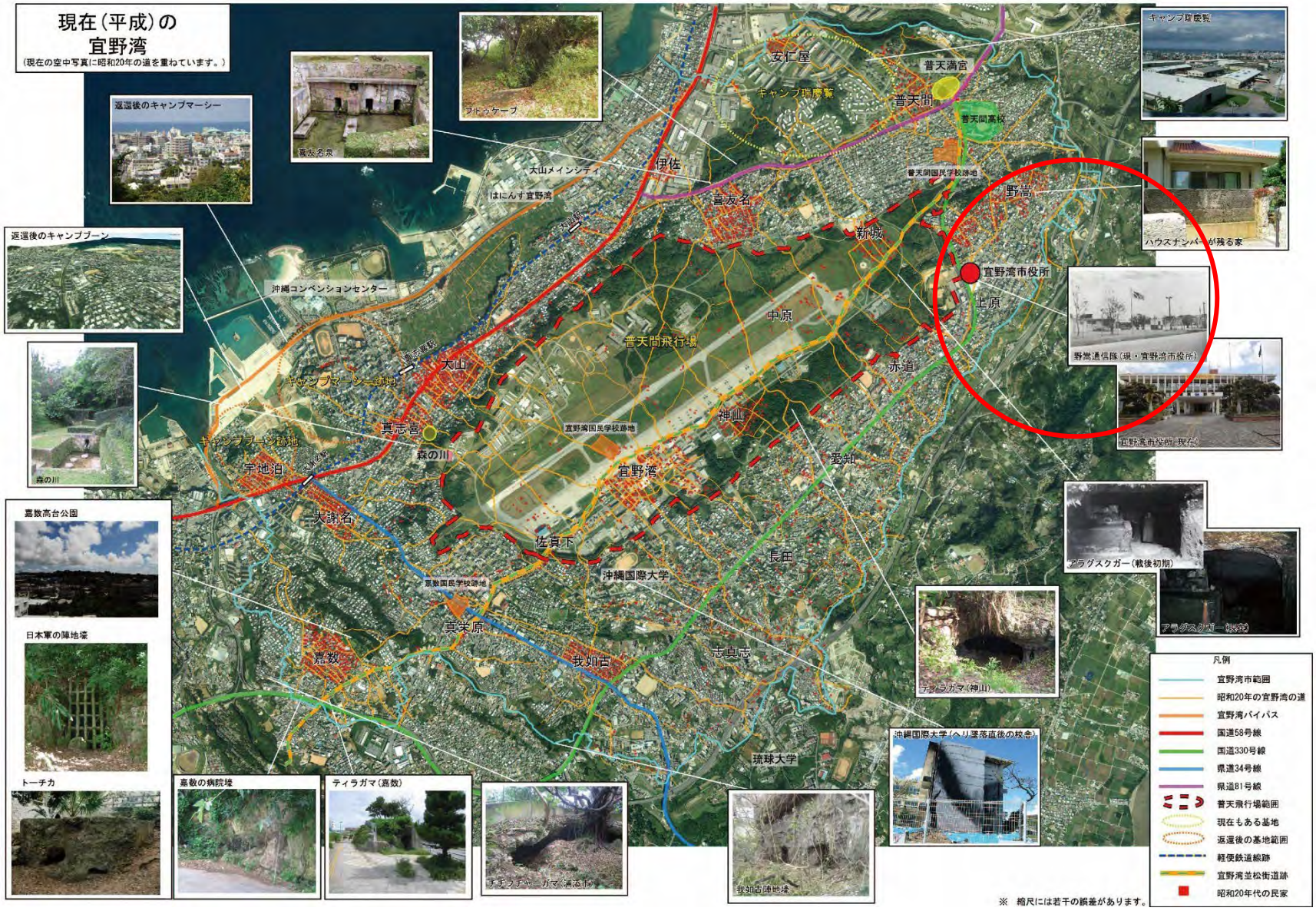
・野嵩の「戦前の集落」のイメージ図！



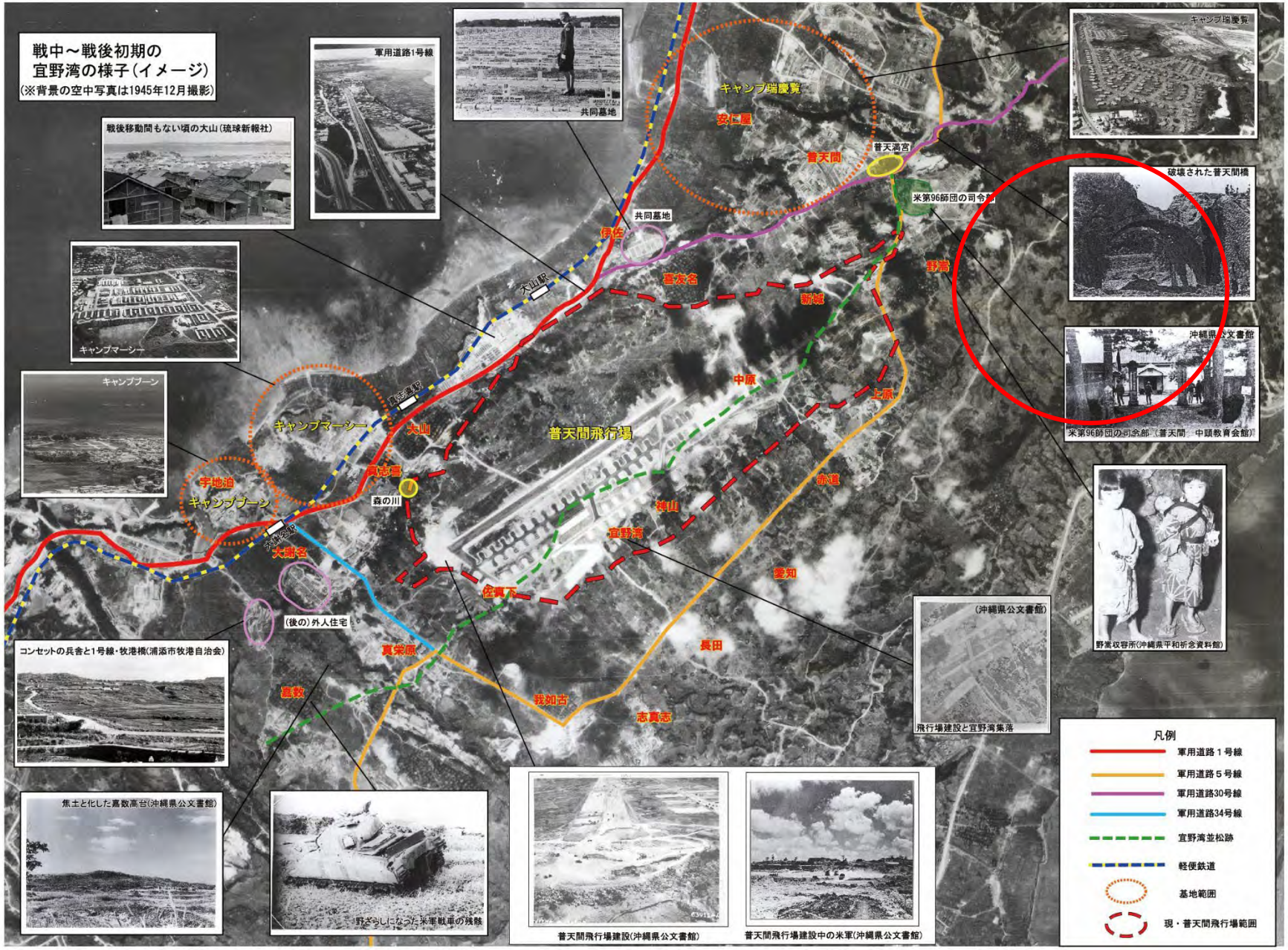
＊前頁の「野嵩 歴史文化遺産マップ」と一緒に携えて、野嵩の「現在の集落」を散策するのも楽しいかと思います！

１．宜野湾市と野嵩のあらまし！

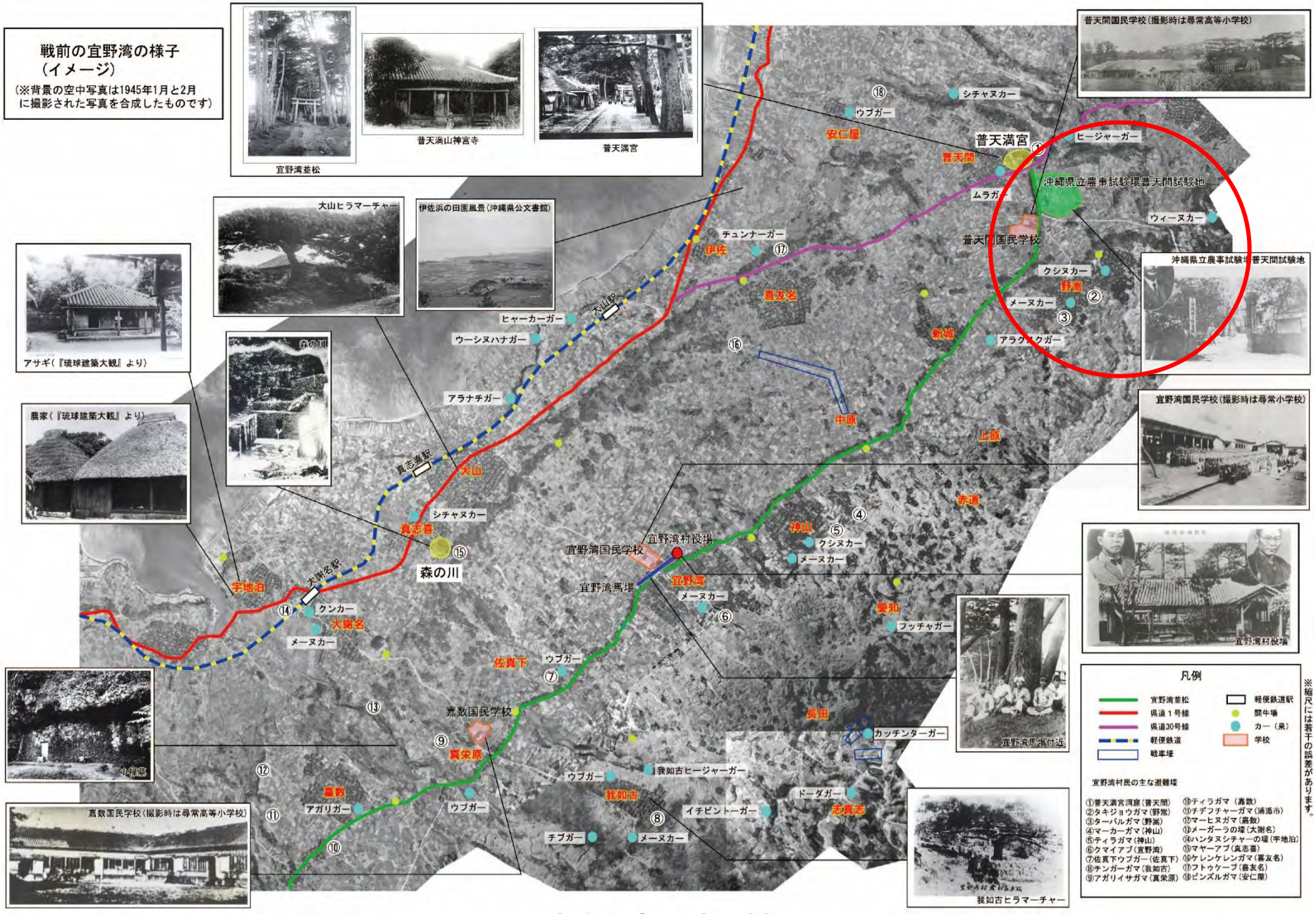
①　宜野湾市の現在から過去へのいざない！



（1）1947 年 10 月～1948 年 1 月撮影の空中写真を 1948 年に調整：『連合軍総司令部第 64 地図大隊作成の地形図』

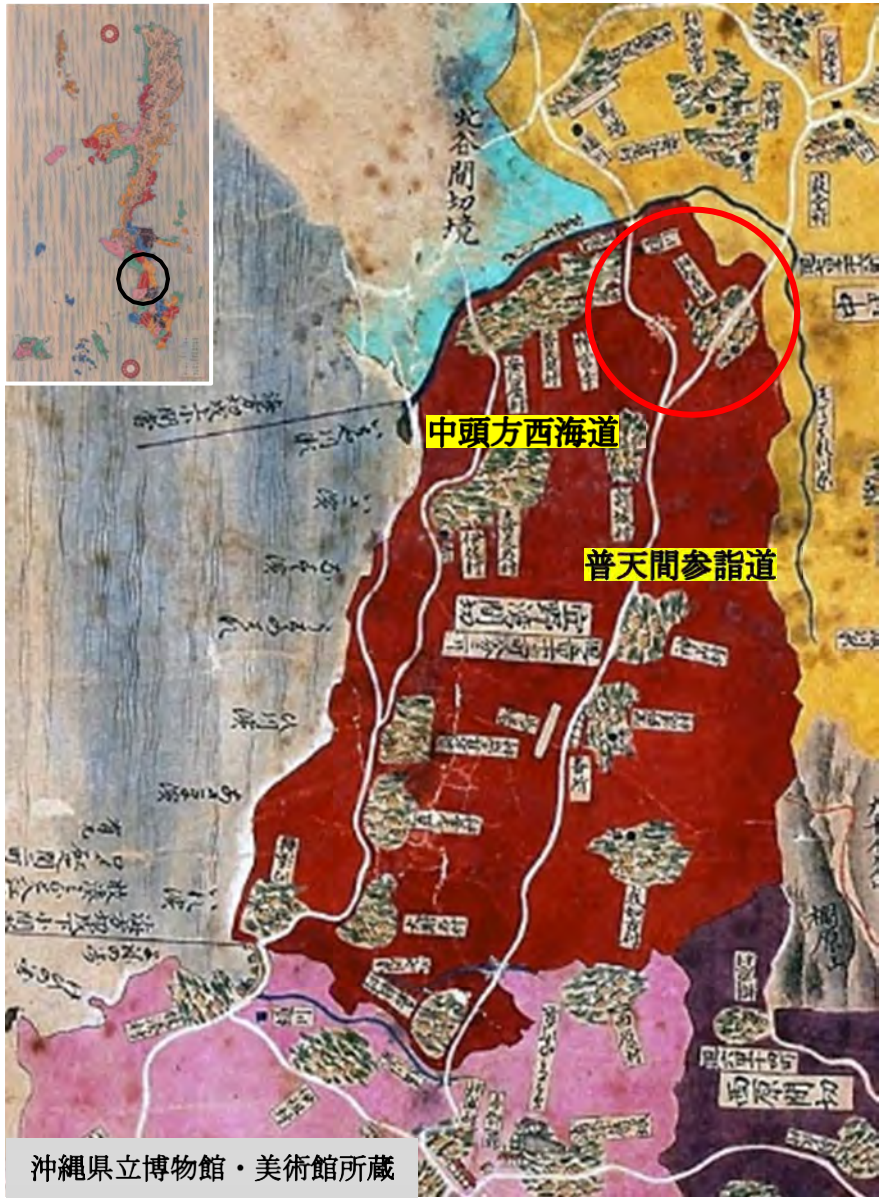


（２）1945 年 12 月：『背景図は「米軍撮影空中写真」』



（３）1945 年１・２月：『背景図は「米軍撮影空中写真」』

（４）1921 年（大正 10）：『陸地測量部参謀本部発行の地形図』



沖縄県立博物館・美術館所蔵

東京大学史料編纂室所蔵

・左上：『琉球国之図(1796 年編集)』
・右　：『間切図(左上図の基図？)』

・『正保琉球国絵図(1640 年代編集)』

（5）近世：琉球王国時代の絵図

② 文献資料にみる宜野湾市域の「村」の名称！

＊「村」⇒「字」 ⇒「区」！ ＊「番地」⇒「〇丁目〇番〇号」！

時代	古琉球 → 1609	← 近世 → 1879	← 近代 → 1945	← 現代 →
文献名	絵図郷村帳 1649年	琉球国高究帳 1635～1664年	琉球国由来記 1713年 [各処祭祀]	中山伝信録 1721年
村名	浦添間切：宜湾、かミ山、かよく、加数、大志やな、志やな、内ミな、喜友名、い さ、あら城 北谷：あきな 中城：前ふてま、寺ふてま	浦添間切：宜湾、かよく、加数、謝名、喜友名、い さ 北谷：あきな 中城：前普天間、寺ふてま	宜野湾、神山、我如古、嘉数、大謝名、真志喜、大山、宇地泊、喜友名、伊佐、新城、安仁屋、野嵩、普天間	宜野湾、城田、我如古、嘉数、謝名、具志川、喜友名、伊佐、新城、安仁屋、野嵩、普天間
関連事項	1546 奢那主司：添継御門之北之碑文 1559 中くすくまきりふてま：今帰仁掟宛辞令書 尚元王代 しゃなの里主：添継御門の南のひのもん	1500年代中頃 謝名具志川地頭職：益氏久場家々譜 万歴年間 浦添間切謝名地頭職：葛氏多嘉山家々譜 浦添間切加賀寿地頭職：兪氏根路銘家々譜	1604 浦添間切喜友名地頭職：阿氏前川家々譜 1613 中城間切普天間村：摩文仁親方安恒宛知行目録 1621 浦添間切謝那村・儀野湾村・我仁横村・加賀寿村：浦添王子朝良宛知行目録	1623 ぎのわん・かかす・ちゃな・きとむなわ・いさ：おもろさうし 1626 中城間切普天間地頭職：蒙氏糸数家々譜

時代	1879年	1896年	1903年	1939年	1940年	1955年	2013年現在
文献名	琉球藩雑記 1873年 [職分・戸籍]	統計概表 1880年 [間切村]	郡区々画 1896年	各間切村原名 1903年	(仲村春勝氏談) 1939年	町村区画 1940年	村誌編纂資料 1955年	市政要覧 2013年現在
村名	宜野湾、神山、我如古、嘉数、大謝名、大川、宇地泊、喜友名、伊佐、新城、安仁屋、野嵩、普天間	宜野湾、神山、我如古、嘉数、大謝名、真志喜、大山、宇地泊、喜友名、伊佐、新城、安仁屋、野嵩、普天間	宜野湾、神山、我如古、嘉数、大謝名、真志喜、大山、宇地泊、喜友名、伊佐、新城、安仁屋、野嵩、普天間	宜野湾、神山、我如古、嘉数、大謝名、真志喜、大山、宇地泊、喜友名、伊佐、新城、安仁屋、野嵩、普天間、真栄原、志真志、長田、愛知、赤道、中原、上原	宜野湾、神山、我如古、嘉数、大謝名、真志喜、大山、宇地泊、喜友名、伊佐、新城、安仁屋、野嵩、普天間	宜野湾、神山、我如古、嘉数、大謝名、真志喜、大山、宇地泊、喜友名、伊佐、新城、安仁屋、野嵩、普天間一～二、真栄原、志真志、佐真下、長田、愛知、赤道、中原、上原	宜野湾、我如古、嘉数、大謝名、真志喜、大山、宇地泊、喜友名、伊佐、新城、野嵩一～三、普天間一～三、真栄原、長田、一九区、中原（計20行政区）
関連事項	1668 謝名地頭・謝名姓から高良姓に改名 1672 中城間切普天間地頭職：毛氏太工廻家々：牧氏翁長家々譜 1674 宜野湾間切高良地頭職：蔡氏具志家々譜 1674 宜野湾間切謝名村・喜友名村：琉球評定所僉議 1675 宜野湾間切大山地頭職：戴氏 1681 宜野湾郡謝名邑有真志喜者：球陽 1690 宜野湾間切謝名高良地頭職：蔡氏具志家々譜 1710 宜野湾間切大山村：おもろさうし 1714 宜野湾間切城田地頭職：楊氏長堂家々譜 1716 宜野湾間切仲松地頭職：向氏真壁家々譜 1747 宜野湾間切大山地頭職：毛氏座喜味家々譜 1749 宜野湾間切城田地頭職：毛氏与世山家々譜 1761 大山：大山御嶽碑 1779 宜野湾間切大山地頭職：毛氏座喜味家々譜 1784 宜野湾県謝名具志川：中山世譜							

☞ ① 『字（あざ）』は、市町村の全域を細かく分けた「地方行政の基本（末端）」となる土地の区画（行政区画）です。さらに、『字』は“小字（原名）”と“地番”に細かく分かれます。それは、1907（明治40）年の“沖縄県及島嶼町村制（おきなわけんおよびとうしょしまちょうそんせい）”の公布により、翌1908年4月1日から実施されました。その制度によって、以前の『村（むら）』は『字』に、「間切（まきり）・島（しま）」は「町・村（ちょう・そん）」に呼び改められました。なお、それに先立って、1899～1903（明治32～36）年には、「土地整理【注】」が行われました。

【注】 土地整理：当時の県民が所有する土地に「私的所有権」を認め、所有権者をもって「納税者」とした、昔ながらの沖縄の土地制度と租税制度を根本的に改めた事業です。

☞ ② 『字（あざ）』ができた1908（明治41）年、宜野湾“村（そん）”は、「宜野湾、神山、新城、野嵩、普天間、喜友名、安仁屋（現在のキャンプ・ズケラン・に所在）、伊佐、大山、真志喜、宇地泊、大謝名、嘉数、我如古」の、昔からあった14地区の『字』に分割されました。その後、士族（しぞく）出身の人々が移り住んだ“屋取（やーどぅい）”の家々が散らばる「長田、愛知、赤道、中原、上原、真栄原、志真志」が1939（昭和14）年に、「佐真下」が1943年に、先の『字』の“小字”を取り込んで、8地区の『行政区』として新設されました。

☞ ③ 戦争直後の『行政区（ぎょうせいく）』。沖縄戦を経えて、宜野湾“村”民は、戦前の『字』に帰ることは米軍から許されず、『字』野嵩の収容所にも、雑居生活を強いられました。そして、1948（昭和23）年10月31日に施行された“宜野湾村行政区設置条例”に先立って、1947年11月頃には、戦前の『字・行政区』による『字（区域）・行政区（区名）』、すなわち「戦前の“在地区分”による“対人的な行政区”」が成立しました。その後、米軍から戦前の『字』などへの移住が許され、『字』の人々が移動すると、その“対人的な行政区”は意味をなさなくなりました。

☞ ④ 現在の『行政区（ぎょうせいく）』は、戦前の『字』と同じく、宜野湾市の全域を細かく分けた「地方行政の基本（末端）”となる土地の区画（行政区画）」です。それは、1968（昭和43）年11月30日に施行された“宜野湾市行政区設置規程”に先立って、1963年7月1日から適用されました。しかし、市域の大部分が米軍に接収されたその合間をぬって、新たな20地区の『行政区』に分け直したことから、戦前米の『字』とその新『行政区』の「土地区画」が一致しないことがあります【注】。

【注】 私は、『字』は“大山”だが、『行政区』は「伊佐」。俺は、『字』は「伊佐」だが、『行政区』は“喜友名”・・・というのは、戦後の米軍の土地接収や1950（昭和25）年以降の外人住宅の建設などにより、戦前の居住地に帰住できない『字』の人々が多く、その制約のもとに行政区『の再編が行われたことによります。

☞ ⑤ 市が認めた『自治会（じちかい）』は、道路や河川などにより「区域」を特定できる、“500世帯以上の地域住民”が、「活動計画、会則」などを定めて、住民の安全確保、福利厚生、スポーツ、青少年健全育成、環境整備、伝統・文化行事などの活動を行っている「地縁団体（ちえんだんたい）」です。そのために、「行政区画」である『字』や『行政区』に住んでいる方々とは、必ずしも一致しません【注】。市が認めた『自治会』は、“宜野湾市自治会の認定に関する規程”により、1985（昭和60）年4月1日から実施されました。現在、市内には23地区の『自治会』があります。

【注】 私は、『字』は“大山”だが、『自治会』は「伊佐」。俺は、『字』は「伊佐」だが、『自治会』は“喜友名ハイツ”・・・というのは、『字』が「土地の行政区画」、『自治会』が「市民の自由意志にもとづく自治組織」という考え方の違いによります。

☞ ⑥ 最近の『住居表示（じゅうきょひょうじ）』は、私たちの住んでいる「住居（建物・家屋）」そのものに番号を付けたものです。これまでは、「土地の行政区画」である『字』の“地番（後に番地）”を住所としていましたが、最近では『字』の“名前”や“境目”がはっきりせず、“地番”も順序よく並んでいないために、訪ね先などが分かりにくくなりました【注】。そのような不便さをなくすために、市では“宜野湾市住居表示に関する条例”を定め、1984（昭和59）年3月31日から“住居表示制度”を開始しました。

【注】 「住居（建物・家屋）」そのものに番号を付けた住居表示」の住所は、「土地の行政区画」である『字』と『行政区』を改めて細かく分けた“地番”と“番地”とは考え方が違うので、必ずしも一致しません。しかし、「住居・住所」を同じくする“番号”で呼ばれる「自治会」とは、「住居（建物・家屋）」を同じくする点で、おおむね一致すると考えてよいでしょう。

③　宜野湾市域の「村」の移り変わり！

『村・字・行政区』の移り変わり　［地方行政組織からみて］

時代区分	近世琉球		近代沖縄		戦後沖縄	
	首里王府 ⇨1872 ⇦ 琉球藩 ⇨1879 ⇦		沖縄県		⇨1945 ⇦ 琉球政府	⇨1972 ⇦沖縄県
統治国家	琉球王国		日本国		アメリカ合衆国	日本国
年代	？～1671	1671～1897	1897～1908	1908～1945	1946～1962	1962～現在
区画単位	浦添間切	宜野湾間切	宜野湾間切	宜野湾村	宜野湾村	宜野湾市
執行機関	番所	番所	役場	役場	役所→役場	役所
（所在地）	（浦添仲間村）	（宜野湾同村）	（宜野湾同村）	（宜野湾同村）	（字野嵩→字普天間）	（字普天間→字野嵩）
責任者	地頭代	地頭所	間切長	村長	村長	市長
基本単位	●●村	●●村	●●村	字●●	字●●	1963　●●区
執行支所	村屋	村屋	村屋	字事務所	字事務所	区事務所・区公民館
担当者	村掟（むらうっち）	村掟（むらうっち）	村頭	字区長	区長	1963　区長

沖縄戦

☞　●●の場所に、あなたの住んでいる所の地名を、あてはめて下さい！　“地域の呼び方の移り変わり”が分かります！

【年代説明】
- 1671年：宜野湾間切を新設［浦添・中城・北谷の3間切（まぎり：現在の市町村に相当）から13村を割き、新たに1村を設けて、14村で設立］。
- 1872（明治5）年：琉球王国（首里王府）を廃し、琉球藩を設置。
- 1879（明治12）年：琉球処分（廃藩置県）により、琉球藩を廃し、沖縄県を設置。
- 1897（明治30）年：「沖縄県間切島吏員（りいん）規程」を公布［間切番所は役場、地頭代は間切長、村掟は村頭などに改称］。
- 1908（明治41）年：「沖縄県及島嶼町村制」を施行［間切は町・村（ちょう・そん）、村（むら）は字、間切長は村長、村頭は字区長に改称］。
- 1945（昭和20）年4月：沖縄戦［米軍は沖縄島に上陸すると海軍軍政府を設立し、米軍の占領・統治は1972年の日本復帰まで継続］。
- 1946（昭和21）年4月4日：市町村制が復活。
- 1962（昭和37）年7月1日：宜野湾村から宜野湾市に昇格。
- 1963（昭和38）年7月1日：「宜野湾市行政区設置規程」を適用。
- 1972（昭和47）年5月15日：日本復帰し、沖縄県となる。

▲1939年の屋取の行政区新設以前の大字図

＝宜野湾の大字（土地）・行政区・住居表示（旧）の区域図＝

▲1939・43年の屋取の行政区新設以降の大字図

▲1964年以降の行政区域図

▲1984年以降の住居表示区域図

☞　現在、地方行政の基本単位である『村・字』は、戦前来の役割を新『行政区』にゆずり、私たちの生活のよりどころとなる「住居（建物・家屋）」も『住居表示』に変わりつつあります。しかし、かつての『村・字・旧行政区』に暮らしていた人々は、私たち宜野湾市の豊かな自然と伝統的な文化、歴史を守り伝え、自治会活動を支援するなど、さまざまな活動を行っています。

２．野嵩の文化財調査　46　年のあらまし」！

①　文化財調査のあらまし［一部］！

＝市内詳細『文化財』分布調査＝

○ 調査年月日

・第一次調査：1979 年 11 月４日～1980 年1月 21 日

・第二次調査：1981 年 1月 25 日～ 同 年3月 31 日

○ お世話になった方々（敬称略：一部）！

・桃 原 宇 精（明治 29 年生：新中桃原小）

・宮 城 清 助（明治 41 年 11 月 16 日生）

・松 川 栄 昌（明治 42 年 11 月 22 日生）

・比 嘉トシエ（明治 42 年 4月 14 日生）

・島 田 キ ヨ（明治 43 年 6月 15 日生）

・宮 本 一 郎（明治 44 年 8月 7日生）

・武 島 ツ ル（明治 44 年 9月 20 日生）

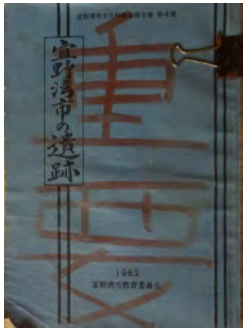
・比 嘉 正 保（明治 44 年 12 月 22 日生）

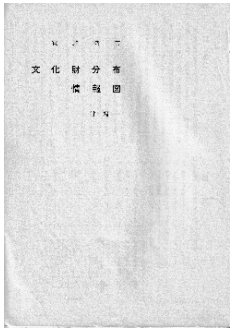
・山 城 要 一（大正 2年 8月 16 日生）

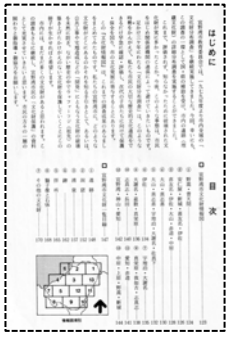
・武 島 正 孝（大正 6年 6月 10 日生）

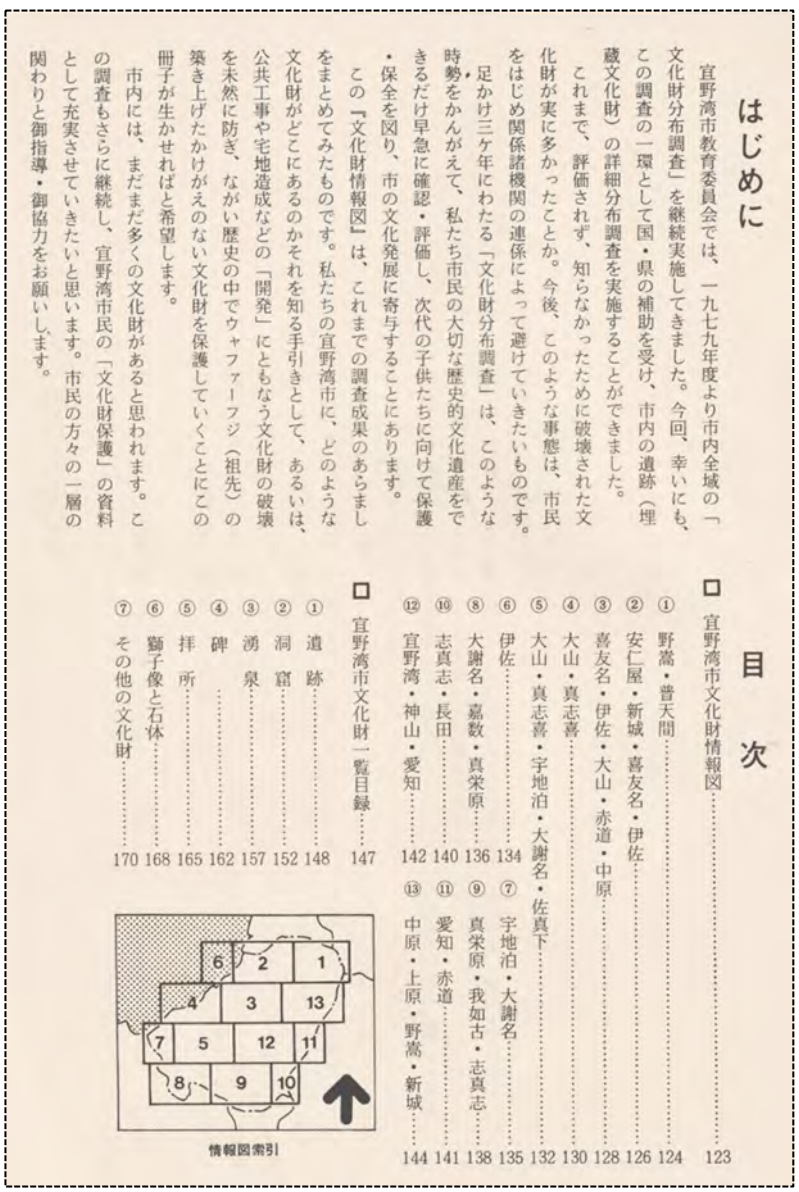
・玉 城 亀 三（大正 7年 11 月 20 日生）

・大 川 信 栄（大正 12 年 12 月 25 日生）









はじめに

宜野湾市教育委員会では、一九七九年度より市内全域の「文化財分布調査」を継続実施してきました。今回、幸いにも、この調査の一環として国・県の補助を受け、市内の遺跡（埋蔵文化財）の詳細分布調査を実施することができました。

これまで、評価されず、知らなかったために破壊された文化財が実に多かったことか。今後、このような事態は、市民をはじめ関係諸機関の連係によって避けていきたいものです。

足かけ三ケ年にわたる「文化財分布調査」は、このような時勢をかんがえて、私たち市民の大切な歴史的文化遺産をできるだけ早急に確認・評価し、次代の子供たちに向けて保護・保全を図り、市の文化発展に寄与することにあります。

この『文化財情報図』は、これまでの調査成果のあらましをまとめてみたものです。私たちの宜野湾市に、どのような文化財がどこにあるのかそれを知る手引きとして、あるいは、公共工事や宅地造成などの「開発」にともなう文化財の破壊を未然に防ぎ、ながい歴史の中でウァファージ（祖先）の築き上げたかけがえのない文化財を保護していくことにこの冊子が生かせればと希望します。

市内には、まだまだ多くの文化財があると思われます。この調査もさらに継続し、宜野湾市民の「文化財保護」の資料として充実させていきたいと思います。市民の方々の一層の関わりと御指導・御協力をお願いします。

目次

□宜野湾市文化財情報図……123

① 野嵩・普天間……124
② 安仁屋・新城・喜友名・伊佐……126
③ 喜友名・伊佐・大山・赤道・中原……128
④ 大山・真志喜……130
⑤ 大山・真志喜・宇地泊・大謝名・佐真下……132
⑥ 伊佐……134
⑦ 宇地泊・大謝名……135
⑧ 大謝名・嘉数・真栄原……138
⑨ 真栄原・我如古・志真志……141
⑩ 志真志・長田……140
⑪ 愛知・赤道……144
⑫ 宜野湾・神山・愛知……142
⑬ 中原・上原・野嵩・新城……147

□宜野湾市文化財一覧目録……147

① 遺跡……148
② 洞窟……152
③ 湧泉……157
④ 碑……162
⑤ 拝所……165
⑥ 獅子像と石体……168
⑦ その他の文化財……170

情報図索引

＊調査日誌（1）

(水)
81 01 22
くもり一時小雨

◎ 大山の名城一二三さん（m39年生，大山 番地）を訪ねる。〔AM10:00～12:00〕

イ.）"ウーミヌハナ。に 十刻印の クルトイシ が 1向幅の 敷土に 立っていたと 教示。

ロ.）現大山小学校の 国道の側に，ルリと 緑し 一里塚が あった。それは，郡八堀を 基点に，仲西→大山→伊佐次の順に あったとのこと。

ハ.）トウクル＝タクグヮ・クェー，シイクサラシ etc について 教示。

◎ 新垣氏と 共に 野嵩を 調査〔2:00～6:00〕

新城部落の 調査予定であったが，そこに 弦事が あったため，急拠 変更!!

イ.）武島ツル（m44年生，145番地），島田キヨ（m43年生；150番地），比嘉トミエ（m42年生，418番地）より，比嘉宅にて，教示をうける。

・拝所（ウィヌタキ・ビンジリモー・トウン・トウングヮー・ウフグディ etc），井泉（メーヌカー・クシヌカー・ミーガー・トウナミガー・ユナジガー etc），御嶽（ターバルガマ・トウナミガマ・カンジョーブーヌガマ etc）について 教示。

・ルリグヮーと 緑し。"ユナハンドウクル の カマ ガチンの畑。（旧地名は ホージリ）に 敷土が あり，その上に クルトが 立っていた。他あり!

・ムーチー・竹拳・ジョークシガヤー etc について 教示。

ロ.）老人会長宅を 訪問

・拝所・拝泉・御嶽・原石 etc の 教示を 受け，ウフグディへ 案内してもらう。

3. ヌタキの ワカムンガシラモーに 土盛りあり，高さ1尺3寸の マーイシが立っていて「たまたま」と 呼ばれていた（絶食吉味の 絶吉の味 誤正）。

(土)
81 01 24
晴のち くもり

◎ 玉那八氏より 拝領 交付

81 3/23 玉城 義之（T7.11/20生，タラ 東上井，電話542番地）

トウナミガーの上の 石の 穴は「しモー」であったと 思える。

◎ 宮本一郎（m44年生，野嵩589番地），宮城清助（m41年生，同95番地）さんらに 聞く。〔PM2:00～4:00〕

イ.）印部石と 思われるもの 4ヶ所について 教示を 受ける。

1. トウナミガマの上の 土手に クルトイシが 立っていた。刻印は 不明であるが，昨年12月の 土地区画の 時，トウナミガマと 共に 埋滅した。都計課の 長浜さんに 聞いたら わかるだろうという。

2. ミーナカトーバルの 家の カジマヤーにも，穴の 彫られた クルトイシが 刻印されていたが，戦前 消失した。

3. 前元川の 東の 現食堂付近に，つりがね形の クルトイシが 土手に 立っていた。それは 国 の 線に "し。記号に "○○系。と 穴が 彫り込まれていた。

・桃原のマナビヤー（100才以上の人が 植えた）
・ウフグディー（新地ガンターベの 北にあり）
・シマガヒカン（ビンジリに 1ヶ所 1ヶ所 ?）

イ.）桃原ジェーキ（ウフグディーの 北く）にも あった。
etc

◎ 比嘉正保（m44年生，野嵩42番地）さんを 訪ねる。〔PM4:00～6:00〕

イ.）上記 3の 印部石と，それ 酷似の 石が 桃原ジェーキ地に あったこと 教示。

1. 上記 3の それは，やはり つりがね形の クルトイシで "いりた 系。の 穴付が あった。その 穴付部は 北面し，畑の あぜに，敷土を 伴わずに 立っていた由。記号部は 不明。その 石の 立つ所の 小地名は "ボーズマタ系。である。

(3ヶ所目)

2. 桃原ジェーキ地の それも "○○系。と 刻印された 東面する クルトイシであった。土手を 伴っていたが，40～50年前 紛失した。畑の 角に 立っていた! 現在の プロピンメ!

＊調査日誌（2）

(木)
81 02 26
くもり

◎ 野嵩の 拝所・拝泉の 確認調査。〔AM10:00～0:00〕

・"ウィーヌ，ウタキ。を 確認し，それが 位置する "ウィーヌモー。一帯を 調査する。その結果，明代 青磁片2片を 得るが，それの 性格は 不明。

◎ 上　同〔PM1:00～ :00〕

イ.）"ビンジリモー。一帯を 調査するが，拝所の 確認できず。

ロ.）公民館裏の "トウン。，ヌンドウン子側の "トウン。，比嘉精肉店横の "トウングヮー。を 実見する。"ミーガー。は 確認できず。

ハ.）部落S側にも，香炉一基を 納めた 祠あるが，区長さんに 聞けば，近くの 老女が 仕立てたもので，部落祭祀とは 関係ないものと云う。

ニ.）石厳当 および 石製像を 検査するが，対象すべきものなし。

◎ 野嵩一区の 区長，大川信英さんを 訪ねる。〔PM3:00～3:30〕

イ.）上記（ハ）

ロ.）"トウナミガー。の セメント碑の 保管方については，都計課より，いまだ 連絡ないという。しかし，保管するとしても，その場所は ない旨。

◎ 野嵩，東原・坊主又原の 区側 丘陵 および 斜面部を 調査。〔PM4:00～6:00〕

・畑地内に 弥縫製 陶器片が 散在する他，考古資料，見つからず。

←

(水)
81 03 11
晴時々くもり

◎ 野嵩の 印部土手の 位置確認，補充調査〔PM1:00～2:30〕

イ.）宮城清助さんを 訪ねる。

・野嵩原と 坊主又原の 境に あった（印部石＝?）穴刻印の クルト石を 教示。

・"長クサラシ。に 拝んだ "ナカミチヌムウイ。に あったと 伝えられる 石について 教示。

ロ.）桃原守精さん（m29年生，新中桃原小，89番地）を 訪ねる。

・桃原ジェーキに あったという（印部石＝?）穴刻印の クルト石を 教示。それは，34・5才までであった。

・新たに，野嵩貯水タンクの それについても 教示。

ハ.）島田キヨ・武島ツル・桃原ハルさんを 訪ねるが，不在。

◎ 市役所を 訪ねる。〔PM2:30～3:00〕

イ.）都計課より 1/5,000 地形図 各2部 もらう。

ロ.）社会教育課 砂川 さんに ファイル50・カード5しめ を 送付する。

◎ 喜友名の 印部土手の 位置確認，補充調査〔PM3:30～5:30〕

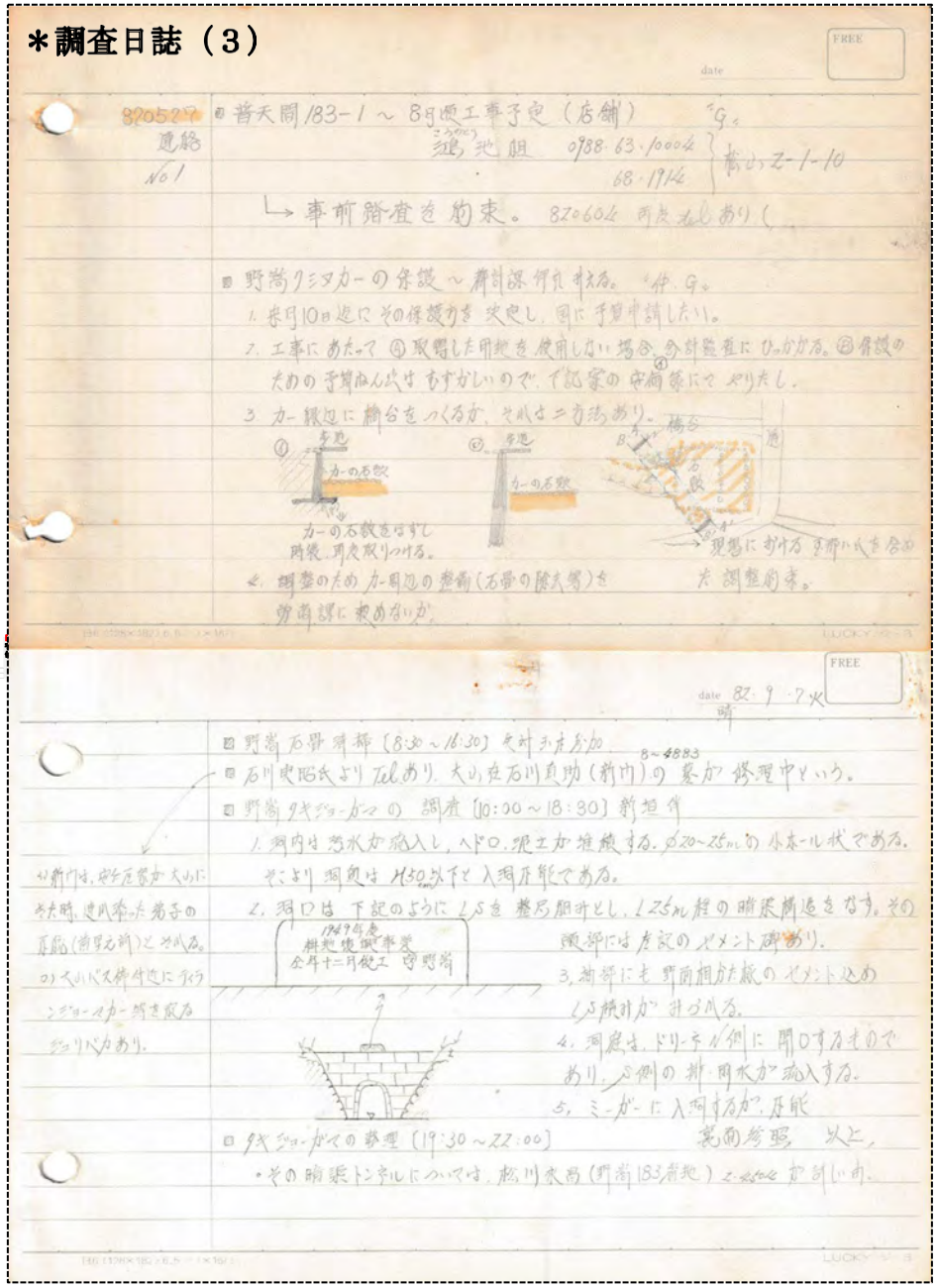
イ.）屋宜盛寿さんを 訪ねる。

・伊佐勇仁さん 教示の（印部石 ?）クルト石は 不明だが，穴刻印の カーグヮーに あった石を 教示。

ロ.）吳屋健栄さんを，カーグヮーに 訪問，上記のことを 訪ねるが 不明。そこより 土器片4ヶ 採取。

◎ 大山水賀志原貝塚 区側にて 前期前半の 土器片 etc を 採取。〔PM6:00～7:00〕

＊調査日誌（3）



820527
連絡
No1

■ 普天間183-1 ～ 8月便工事予定（店舗）
湧池組 0988-63-10004 / 68-1914 } 桜ヶ丘2-1-10

↳ 事前踏査を約束。820604 再度 ah あり（

■ 野嵩クシヌカーの保護 ～ 都計課 何れ 申える。 "Ap. G"

1. 来月10日迄にその保護力を 決定し、国に予算申請したい。
2. 工事にあたって ④取壊した用地を使用しない場合 分計監査に ひっかかる。 ⑤保護のための予算ねん出さ むずかしいので、で記家の 中間策にて やりたし。
3. カー縁辺に 柵台をつくるか、それとも二方法あり。

4. 調整のため カー周辺の整備（石垣の除去等）を 労商課に 求めないか。

date 82・9・7 火

■ 野嵩石垣 清掃（8:30 ～ 16:30） 先村 ホ主 ホ加
■ 石川史昭氏より Tel あり。大山在石川真助（前内）の墓が 修理中という。 8～4883
■ 野嵩クキジョーガマの 調査（10:00 ～ 18:30） 前担者

1. 洞内は 湧水が流入し、ヘドロ、泥土が 堆積する。φ20～25m の 小ホール状である。 そこより 洞奥は H50 以下と 入洞困難である。
2. 洞口は 下記のように LS を 整石胴部とし、L25m 程の 暗渠構造をなす。その 頭部には 方設の セメント 跡あり。

3. 洞部にも 野面積 方 厳の セメント 込め LS 横材が 計づける。
4. 洞底は、ドリーテ 側に 開口するそのであり、S側の 排・用水が 流入する。
5. ミーガーに 入洞する が、乃能 範囲 参照 以上。

■ クキジョーガマの 整理（19:30 ～ 22:00）

・その 暗渠トンネルについては、松川水路（野嵩183前地）と 接続 が 詳しい。

40前門は、ガケ石垣が 大いに 崩れた時、使用 除った 瓦子の 瓦礫（前野石前）と それ。のくいバス 停付近に クキジョーガマ 開き 底 ジョリ ベ あり。

野嵩みるく節

作詞 山城要一
作曲 大城盛儀

一 世ぬ中や 変わて 御年寄や 宝
体果報 みしよち 共に遊ば
（我した村の 栄 ゆがふう 願げさびら）

二 普天間 権現や 野嵩に 向かて
世間う 万人ゆ 守いみ ぴよち

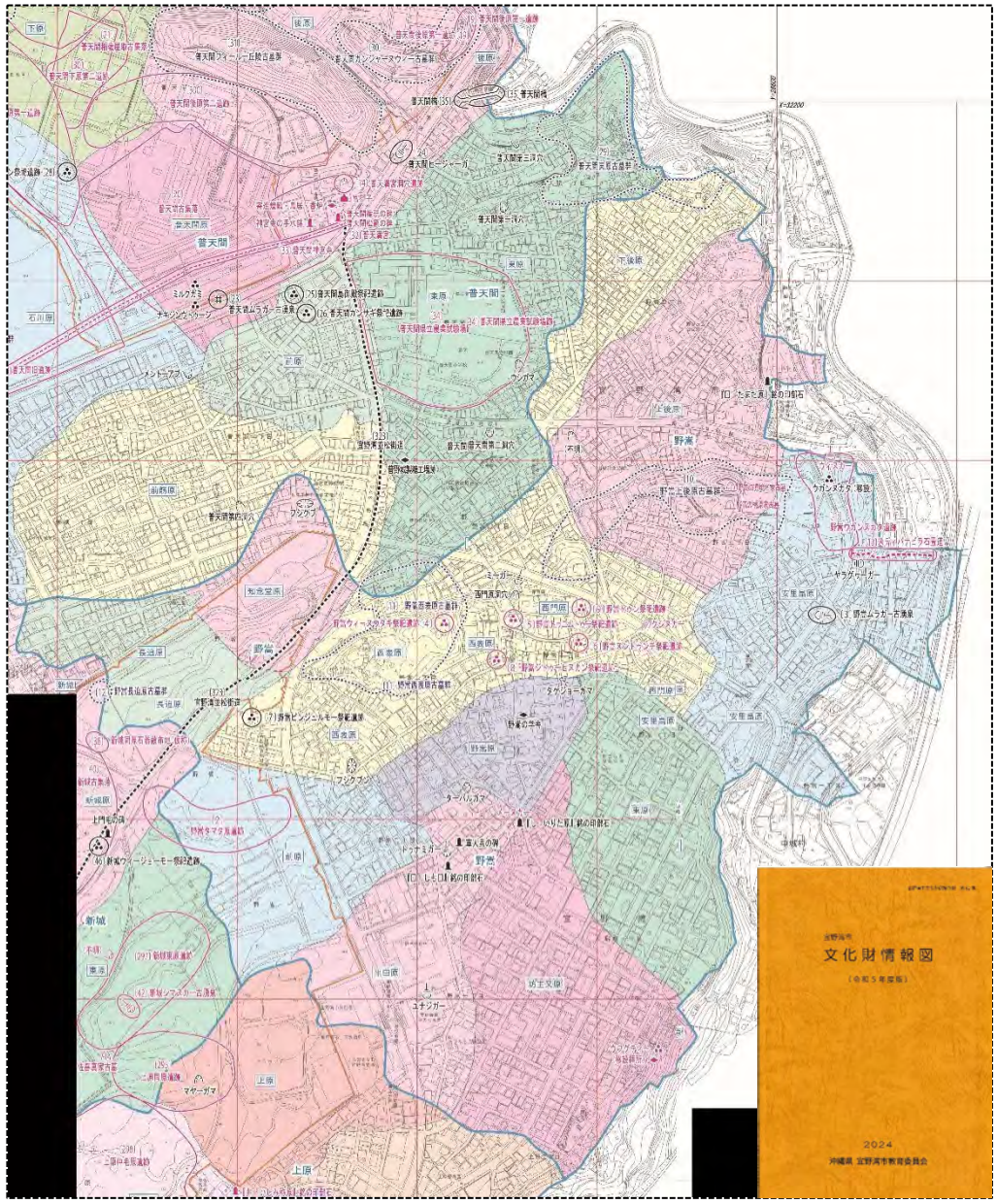
三 昔 音だかさ 宜野湾ぬ 並み木
戦さ世ぬ 後や さたゆ 残くち

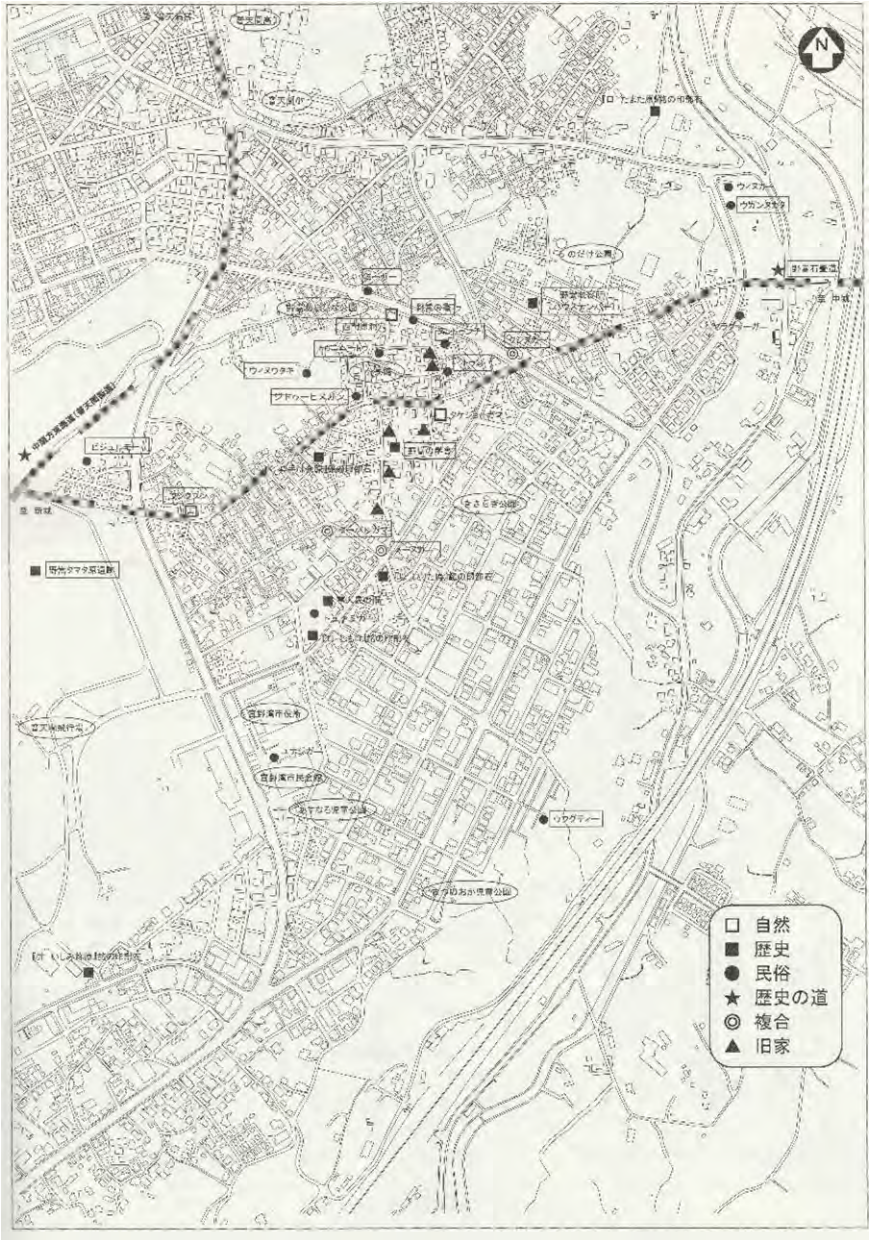
四 昔 我が 村や 布織てん 美らさ
野嵩みやらびぬ すなみ 美らさ

五 野嵩てる 村や 我した 村でむぬ
互げに 肝合わち むてい 栄い

六 野嵩ムラガーや 我が 村ぬ 命
若水ゆ 迎けて いちん 若々と

② 野嵩の「文化財情報図」！

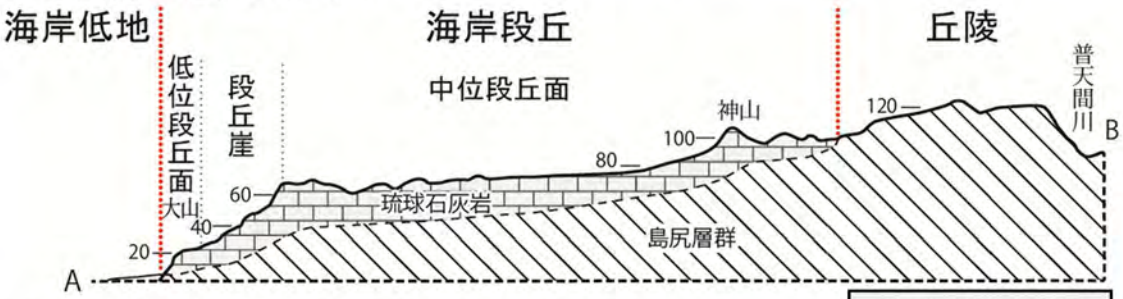




引用文献＝左：『宜野湾市文化財情報図〔令和５年度版〕（宜野湾市教育委員会，2024)』。右：『文化財保存整備基本構想作成業務委託（同，2011）』

③ 野嵩の「遺跡＝埋蔵文化財包蔵地」！

＝自然環境と遺跡のまとまり＝



［琉球石灰岩カルスト台地の海岸段丘地形］

①：旧海岸線（西側はサンゴ礁、東側は海岸低地）

②：低位段丘の丘陵斜面

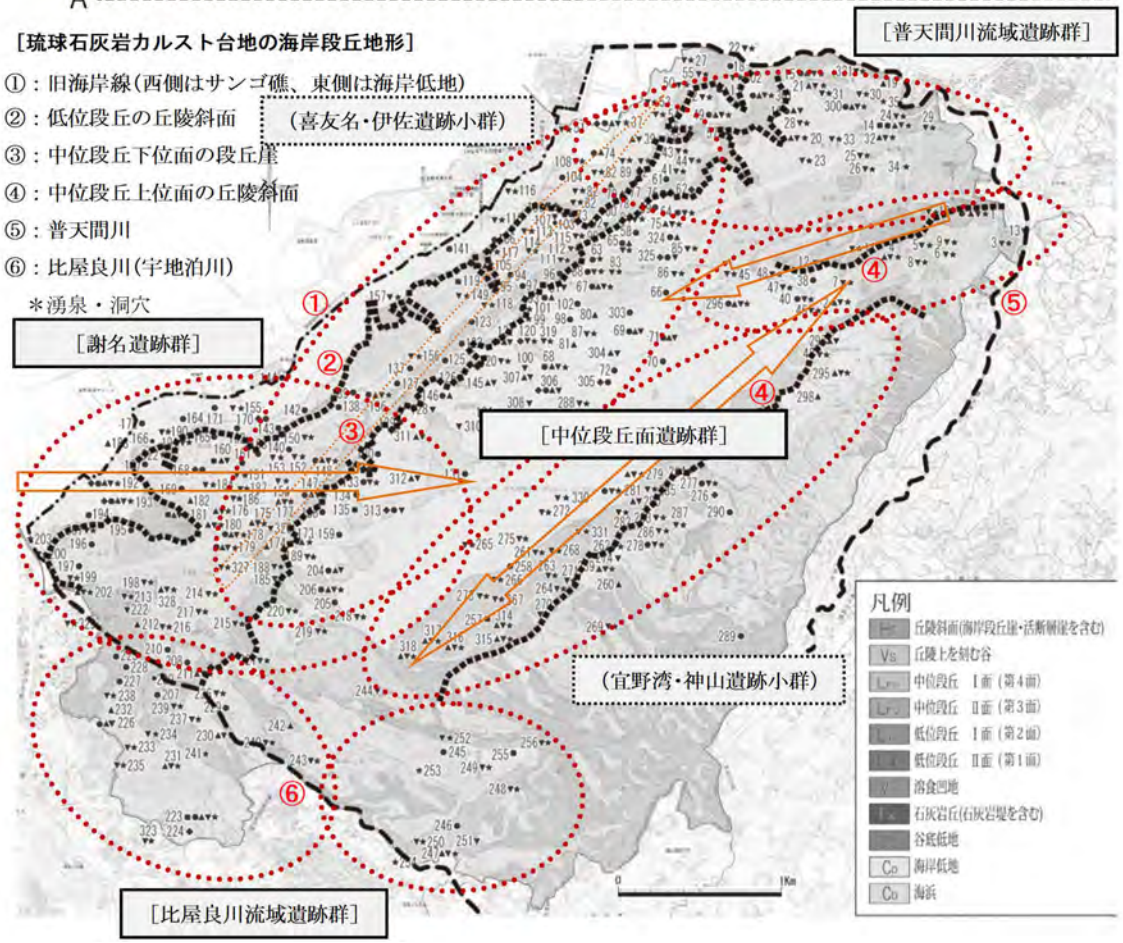
③：中位段丘下位面の段丘崖

④：中位段丘上位面の丘陵斜面

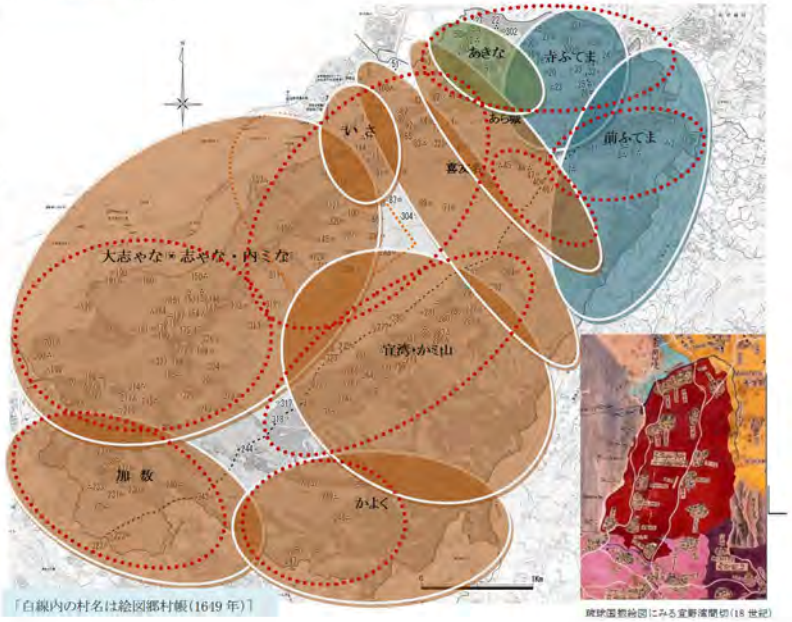
⑤：普天間川

⑥：比屋良川（宇地泊川）

＊湧泉・洞穴



近世琉球：1,609 年～1879 年



遺跡とは　祖先の方々が残した生活の跡です。遺跡には土地にきざまれた住居・墓・田畑などの遺構と、遺物と呼ぶ土器や石器などの生活用具があります。それらの遺構と遺物を発掘調査することにより、当時の人々の暮らし・知恵・祭い・社会のようすなどがわかります。

遺跡を見つけることはそんなに難しいことではありません。人々が生活する場所には自然と黒土がたまります。その黒土の中から昔の土器や石器などを探して、遺跡であることを確かめます。そして、遺跡の年代は、当時の土器の文様や形などにも流行があることから、その変化によって調べます。

沖縄の原始・古代社会の流れ　沖縄諸島の歴史と文化は、固有の独自性が強いことから縄文・弥生・古墳等の本土の時代区分とは別個に取り扱っています。

沖縄諸島に人々が住み着いたのは、今から3万年程前にさかのぼります。それは骨角器時代と呼ばれます。次いで、本土の縄文時代から弥生時代を経て平安時代に至る長い期間が、沖縄貝塚時代と呼ばれる海山の幸を採取することにより日々の生活を支えていた時代です。それに代わる沖縄の歴史で始めて農耕を基礎とする社会がグスク時代です。グスク時代は12世紀から15世紀におよび、14世紀頃には中山・山北・山南の三域の小国家が成立します。やがて、1429年には尚巴志がその三小国家を滅ぼして沖縄全域を統一し、尚円の即位による第二尚氏王統を経て尚真が名実ともに中央集権的古代国家をうちたてます。琉球王国の誕生です。

＊参考：『野嵩における遺跡＝埋蔵文化財包蔵地の一覧（2024 年３月現在）』

大字	遺跡名称			旧石器時代	沖縄貝塚時代					グスク時代	近世琉球	近代沖縄	立　地（右上数値は標高、単位:m）
					早期	前期		中期	後期前半	後期後半				
野嵩	001	ウガンヌカタ遺跡	うがんぬかたいせき					◎[*1]	＋		＋	◎[*2]	◎[*2]	中位段丘下位面の石灰岩丘 80～99
	002	タマタ原遺跡	たまたばるいせき								◎*	？*	◎*	中位段丘下位面の乾谷 80～87
	003	ムラガー古湧泉	むらがーこゆうせん									∴*	∴*	中位段丘下位面の凹地 88
	004	ウィーヌウタキ祭祀遺跡	うぃーぬうたきさいしいせき								＋	∴*	＋*	中位段丘下位面の石灰岩丘 102
	005	トゥニムトゥー祭祀遺跡	とぅにむとぅーさいしいせき									∴*	∴*	中位段丘下位面の平坦地 88
	006	トゥン祭祀遺跡	とぅんさいしいせき									∴*	∴*	中位段丘下位面の平坦地 89
	007	ビンジュルモー祭祀遺跡	びんじゅるもーさいしいせき									∴*	∴*	中位段丘下位面の石灰岩丘 85
	008	ジトゥーヒヌカン祭祀遺跡	じとぅーひぬかんさいしいせき									∴*	◎*	中位段丘下位面 の平坦地 88
	009	ヌンドゥンチ祭祀遺跡	ぬんどぅんちさいしいせき									◇*	∴*	中位段丘下位面の平坦地 88
	010	上後原古墓群(旧称上後原・下後原古墓群)	うぃーぐしばるこぼぐん									◎*	◎*	中位段丘下位面の石灰岩丘 80～100
	011	西表原古墓群	いりむてぃばるこぼぐん									◎*	◎*	中位段丘下位面の石灰岩丘 83～102
	012	長迫原古墓群	ながさくばるこぼぐん									◎*	◎*	中位段丘下位面の丘陵斜面 76～79
	013	スディバナビラ石畳道	すでぃばなびらいしだたみみち									◎*	◎*	中位段丘下位面の丘陵斜面 57～80

	内容説明	初確認年月日	確認方法（確認者）	現　況	保存状況	備考:①参考文献/②発掘調査年《〈(報告書等刊行年)〉》/③前回一覧との比較
001	*1集落跡、*2祭祀遺跡	82.03.21	分布(呉屋)	拝所、市道、原野	一部残存	①●82a,85a,89b,91c,94f,02d,04b,06c,09d,13a/②94《96b》/③-
002	*生産遺跡(農耕関連)	90.12.01	試掘(呉屋)	普天間飛行場	良好	①●91c,93b,94f,02d,04b,06c,06d,09d,10c,12a,13a/②90〈95b〉,01《05b》,02・03・05《06b》,04・05《07a》/③－
003	*井泉跡	－	口伝(－)	宅地	不明(埋土)	①●06c,09d/②－/③－
004	*祭祀遺跡	81.02.26	分布(呉屋)	拝所、原野	改変	①82b,85a,●06c,09d/②－/③－
005	*祭祀遺跡	81.02.26	口伝(－)	拝所、宅地	改変	①82,85a,●06c,09d/②－/③－
006	*祭祀遺跡	81.02.26	口伝(－)	拝所、里道	改変	①82b,85a,●06c,09d,12c/②－/③－
007	*祭祀遺跡	－	口伝(－)	拝所、原野	改変	①82b,85a,●06c,09d,10c/②－/③－
008	*祭祀遺跡	81.02.26	口伝(－)	拝所、宅地	改変	①82b,85a,●06c,09d/②－/③－
009	*祭祀遺跡	－	口伝(－)	拝所、宅地	改変	①82b,85a●06c,09d,12c/②－/③－
010	*墓地	－	分布(呉屋)	墓地、公園	改変	①●94f,02d,04b,09d,13a/②05・09《11a》,10・14《17c》,14《17d》/③補追
011	*墓地	81.02.26	分布(呉屋)	墓地	良好	①●94f,02d,04b,09d,10c/②－/③－
012	*墓地	91.08.15	不時(呉屋)	普天間飛行場	残存	①●02d,04b,06c,09d,10c,12a/②91,93/③－
013	*宿道跡、石畳道	－	分布(－)	里道	残存	①82b,85a●06c,09d,12c/②11,19《22c》,22・23/③補追

引用文献：『宜野湾市文化財情報図〔令和５年度版〕（宜野湾市教育委員会，2024)』。

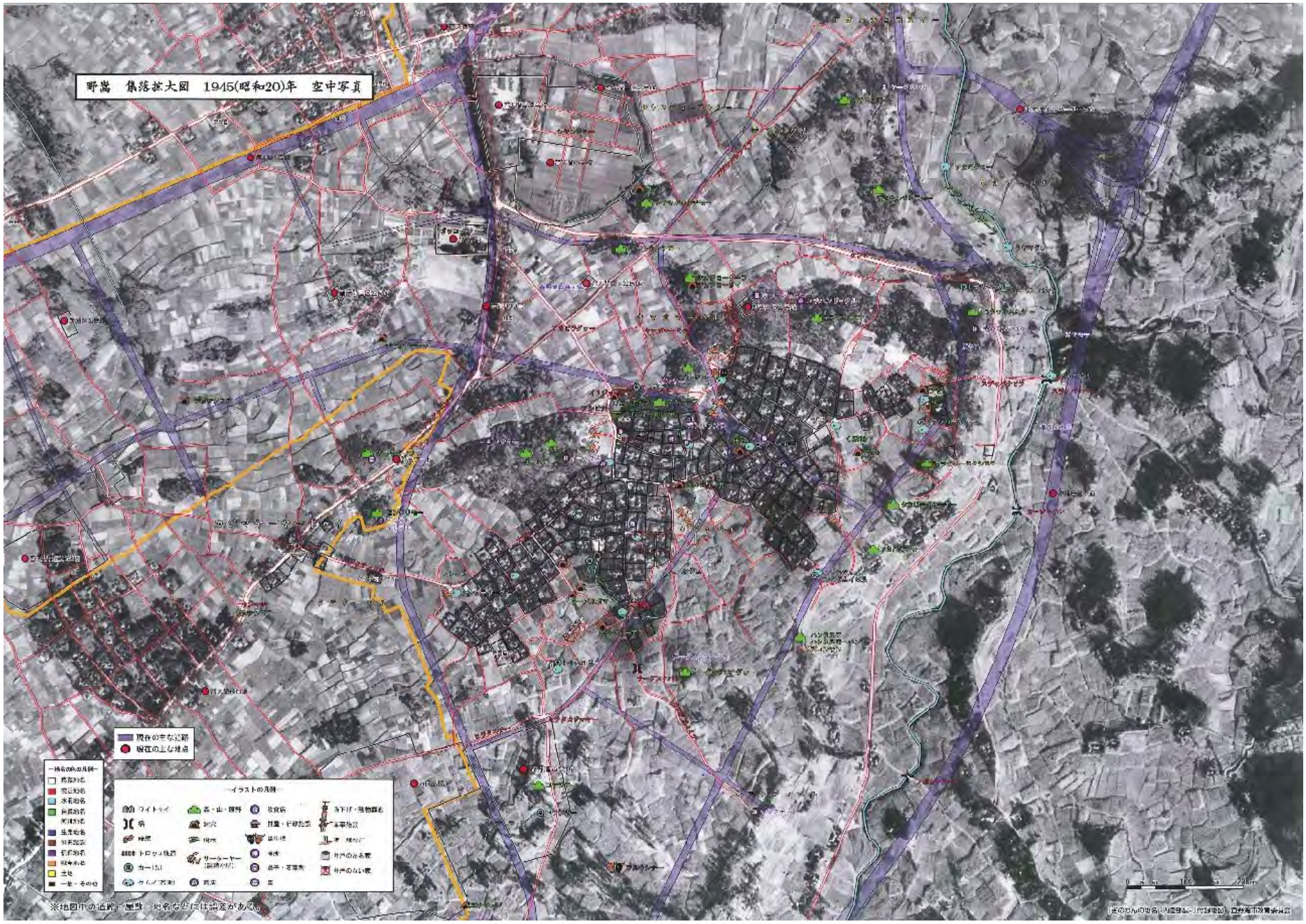
④　野嵩の「地名：集落，交通，水利，自然，生業，公共施設，信仰，戦争，土地，一族・その他」！

＝野嵩の『地名』調査＝

○ 調査年月日
- 2007 年度，2010 年度

○ お世話になった方々（敬称略）！
- 大川正雄（大正 13 年生）
- 宮城武雄（大正 13 年生）
- 松川貞雄（昭和 7年生）
- 島田政弘（昭和 19 年生）

引用文献：『ぎのわんの地名－内陸部編－(宜野湾市教育委員会，2012)』。



引用文献：『ぎのわんの地名－内陸部編－(宜野湾市教育委員会，2012)』。

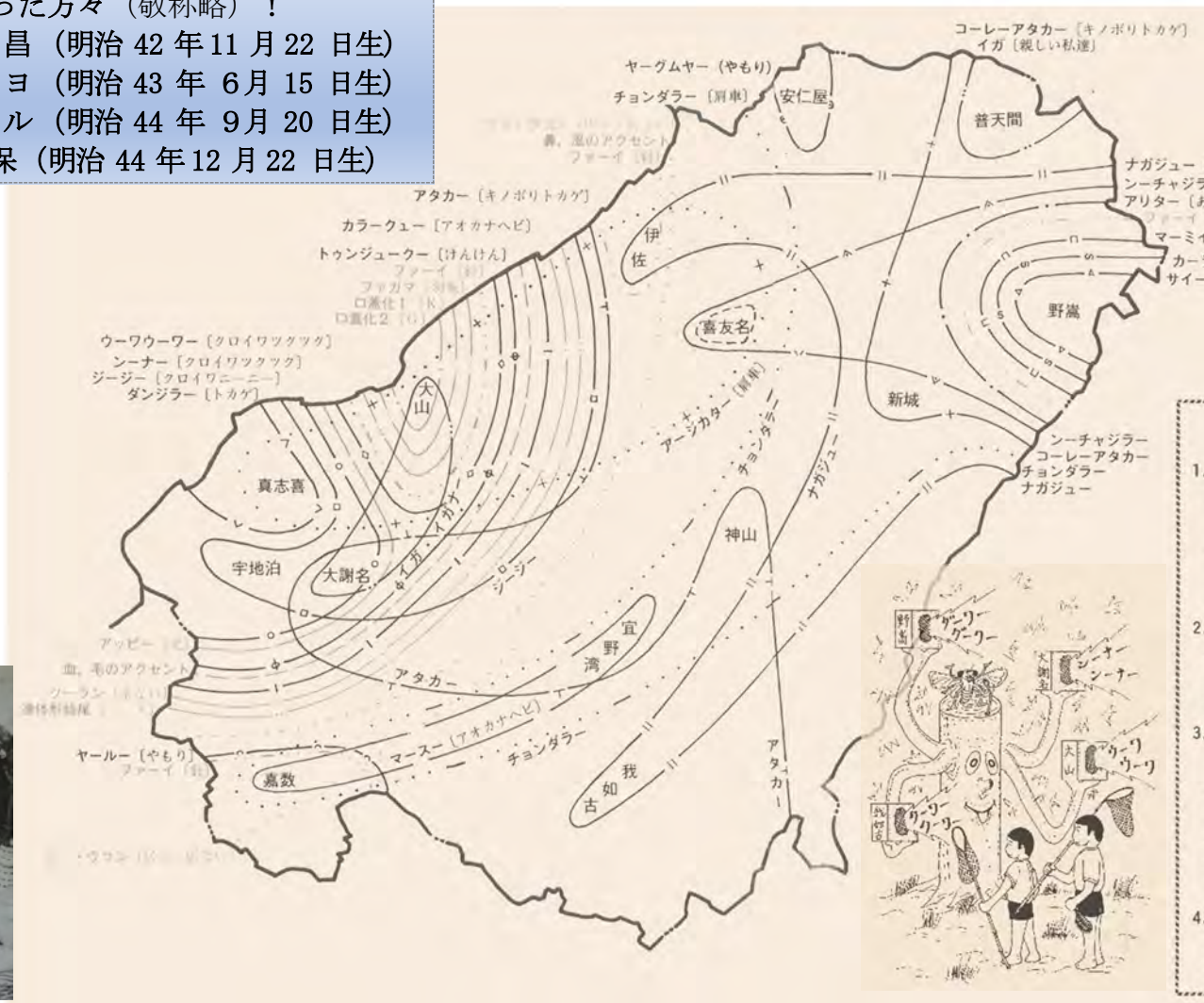
⑤　野嵩の「言語：方言」

＝野嵩の『方言』調査＝

○ 調査年月日
- 1984 年 10 月 10 日

○ お世話になった方々（敬称略）！
- 松川栄昌（明治 42 年 11 月 22 日生）
- 島田キヨ（明治 43 年 6月 15 日生）
- 武島ツル（明治 44 年 9月 20 日生）
- 比嘉正保（明治 44 年 12 月 22 日生）

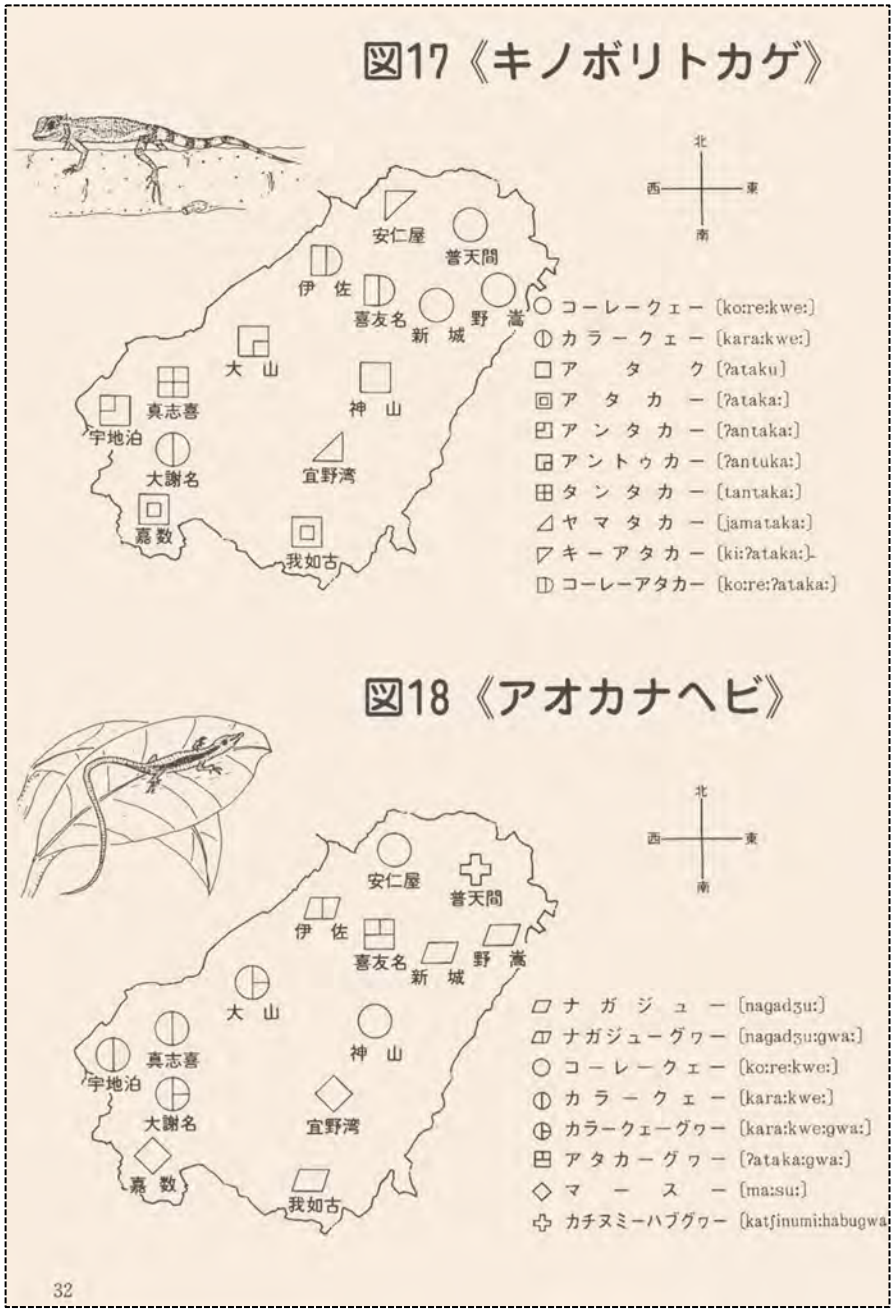
＊参考：『近世における宜野湾間切（当時）のノロの管轄村図』

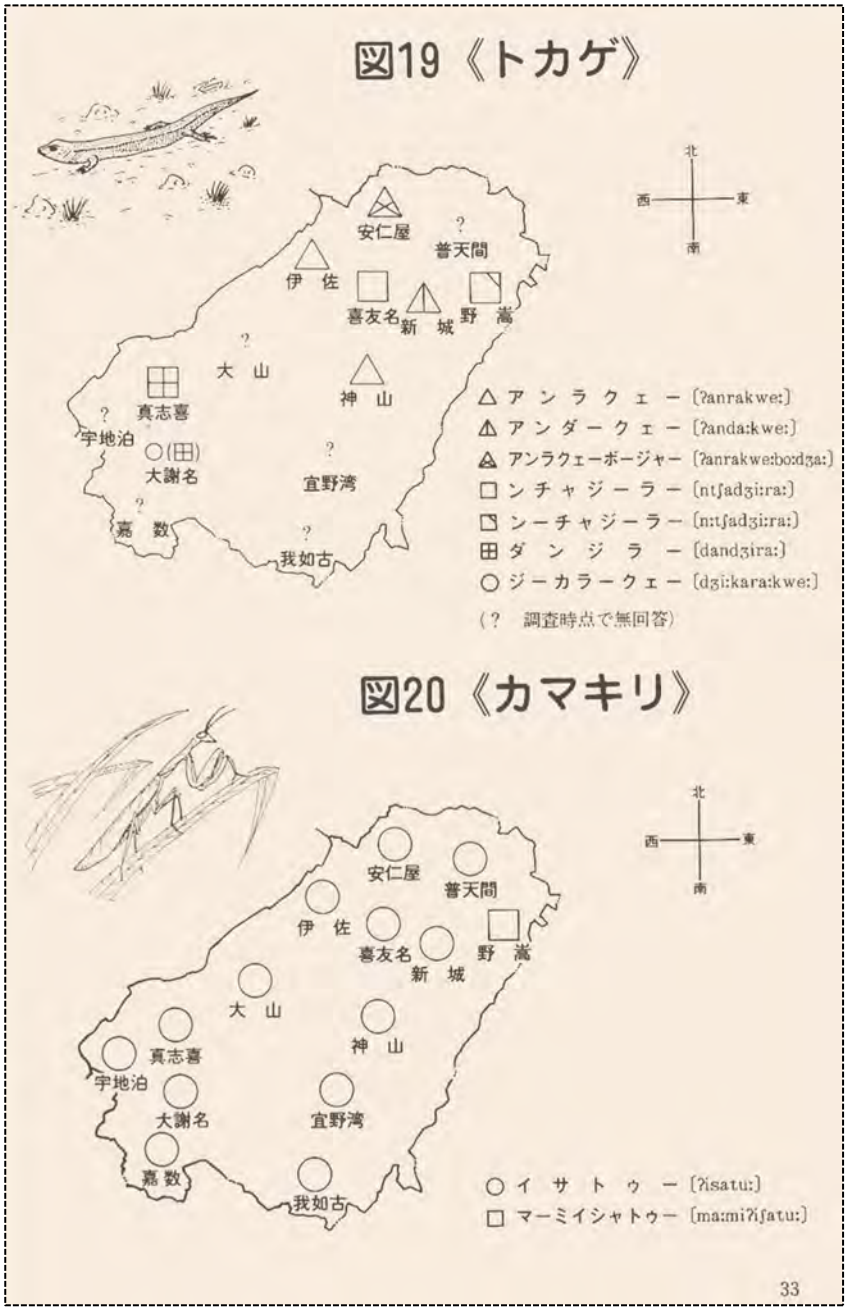


本図の見かた

1. 本図は，宜野湾市内の方言について，音韻（言葉の音声：青色）7種，語彙（言葉の種類：黒色）14種，文法（文を組成する場合の言語のきまり：赤色）3種の分布をひとまとめにしたものです。
2. 方言の話しかたの違いを表わす各種の線が重なり合う部分の多さはその線で囲まれる地域に，他とは区別される独得な言語生活があることを示します。
3. 本図を見ると，市民こぞって言葉が違うとされる大山を中心に，真志喜・大謝名・宇地泊の四か部落を合わせた宜野湾『西部方言地域』と，野嵩にその中心をみるが，あまりまとまりがあるとはいえない『東部方言地域』に大きく別れることが知られます。
4. 市民の皆さんが，さらに多くの方言を調べられ，本図の内容を豊かにしていただければ幸いです。

引用文献：『方言（宜野湾市教育委員会，1985）』：調査・執筆は沖縄国際大学名誉教授の野原三義先生。





引用文献：『方言（宜野湾市教育委員会，1985）』：調査・執筆は沖縄国際大学名誉教授の野原三義先生。

⑥　野嵩の「民話」と「芸能」，その他！

“民話の息づく街　野嵩”散歩コース

お年寄りの方々が、大切に語り伝えてきた「民話」。子供たちは、その話しを聞いて、創造心や冒険心に胸をふくらませ、自然の恵みや祖先の知恵を身近に感じたものです。そして、自分の住んでいる地域を知る糸口としました。“民話の息づく街　野嵩”を、訪ねてみましょう。

①野嵩の由来

石原家の祖先が、新垣から安谷屋に移り、さらに東西の海がみえる“ウタキ”に登り、安住の地としたので“ヌダキ”と名付けた。

②竜の形をした山並み

かつて、部落の周囲は、竜の形をした大きな山々で取り囲まれ、才能のある人は出なかった。そこで、その山並みを三つに切ると、優秀な人物が出たそうだ。

③フシクブンとウフグティー

昔、天から星が落ちて、できたのがフシクブンの窪みだ。また、部落の東はずれには、牡牛の形をしたウフグティー、向かいの新垣にはガンワーと呼ぶ大岩が立ち、お互いに吼えあったと(78頁参照)。

④タキジョーガマ洞穴と侍の刀

首里に王様がいた頃、ある侍が中城城での公務を終え、ほろ酔い加減で家路につくとき、ガマのある林で遊ぶ新城の若者達に大事な刀を盗まれた。それからというもの、新城の人が那覇に行くと、よく乱暴された。

⑤野嵩石畳道［市指定史跡］

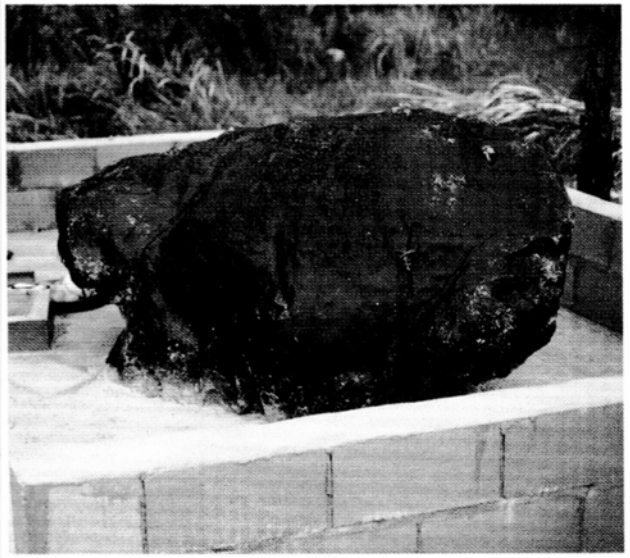
今から五百年程前、勝連城の阿麻和利に敗れた中城城の護佐丸の妻子が、この坂を登って逃げるとき、追っ手に射られた弓矢が彼女の着物の袖を引き離した。それから、この坂は「袖離坂」と呼ばれた(54頁参照)。

⑥桃原家の家作り

戦に敗れ、焼け残った中城城の木材は、野嵩の桃原家と普天満神宮に移されたと。

⑦ガンと獅子

かつて、普天間には死者を野辺送るガン、野嵩には獅子があったが、神宮の神様の居ます部落にガンがあってはと取り替えた。



牡牛の形をした“ウフグティー”

※数字は“散歩コース説明文”の場所と一致します。

☆メモ　野嵩は“祭りと年中行事”も多い。特に六年(子と午年)に一回行われる村芝居は、当地ならではの数々の組踊りや舞踊が演じられ、一見の価値がある。

引用文献：『ぎのわんの文化財：第６・７版(宜野湾市教育委員会，2001・2007)』。

芸能のムラ－野嵩－

忠臣蔵佐丸

野嵩ではムラアシビ（豊年祭）・綱引き・エイサー・アガリーボンボン・フェーヌシマ・クシユックイ・サングワチャー・モーアシビ等の民俗芸能が行われていました。

当時のムラの主導者たちは「アシビこそムラの繁栄とムラ人の健康に繋がるもの」と認識していたようです。演目は指導者たちの意識の高さと新しさを加える心掛けが合体して独自のものとなり、本島中部において群を抜くアシビの地域となりました。

戦中戦後の混乱期は伝統行事も途絶えましたが、復活された後は沖縄各地のムラアシビの決まりを正しく継承して、今日でも多くの特徴ある演目が自信と誇りを持って演じられています。

終戦後に復活したムラアシビは、多くの人々の心を癒し、生きる力と喜びを与えました。

<野嵩で1948年に使われた蚊帳（かや）製の組踊衣装>

■ 戦前の野嵩集落イメージ図

野嵩について

野嵩は宜野湾市東方の石灰岩台地上に位置し、方言で「ヌダキ」と言います。

1671（康熙10）年に宜野湾間切が設置される以前は中城間切の一部でした。

湧水は豊富でしたが水田は少なく、芋が主食でした。サトウキビ・サツマイモ・大豆・麦・粟・モチキビ等を輪作しながら、雌牛の飼育も盛んで肉牛として県外に移出していました。

開戦後すぐに民間人収容所として利用されたので大きな戦災は受けず、近世来の碁盤目状の区画をほぼ保っています。戦後の人口増加に伴い、1964（昭和39）年に野嵩一区（旧集落）・野嵩二区・野嵩三区が発足しました。

戦中戦後の混乱期には伝統行事も途絶えましたが、生活が安定した後、「ちなひちもういい」「ウチチウマチー」「マールアシビ」が復活され、野嵩一区自治会に受け継がれています。

■ 宜野湾市全域図

編集・発行／宜野湾市教育委員会文化課
〒901-2203 沖縄県宜野湾市野嵩 1-1-2
TEL.098-893-4430
編集協力／株式会社アートリンク
〒901-0146 沖縄県那覇市具志3-17-22
TEL.098-894-5397
印刷／□□□□□□□□□□
〒000-0000 沖縄県○○○○○0-00-00
TEL.000-000-0000

ぬだき 野嵩 歴史文化遺産マップ

収容所のあったムラ

1945（昭和20）年4月1日に沖縄本島へ上陸した米軍は3日後、野嵩に民間人収容所を設置しました。戦時中は攻撃対象とされず、破壊を免れた民家の母屋をはじめ、家畜小屋に至るまで収容所として使われました。保護された民間人は一時期、野嵩で過ごした後に北部の収容所へ移送されました。戦況がすすむにつれ収容される民間人は増加し、ピーク時には1万人余の人々が暮らしていたといいます。湧き水の豊富な野嵩でしたが、人が増えたことで水不足となり、真夜中から水汲みに並んだそうです。

米軍は民間人を保護するとともに、野山に放置された死体の埋葬や、伝染病予防の消毒作業などにもかりだしました。また、クシヌカー前の窪地にはコンクリートで造られた貯水槽があり、野戦病院から送られてくる負傷兵のシャツ、タオル、包帯、毛布などを洗濯させました。

洗濯をする女性たち。野嵩クシヌカーか？ 一九四五年

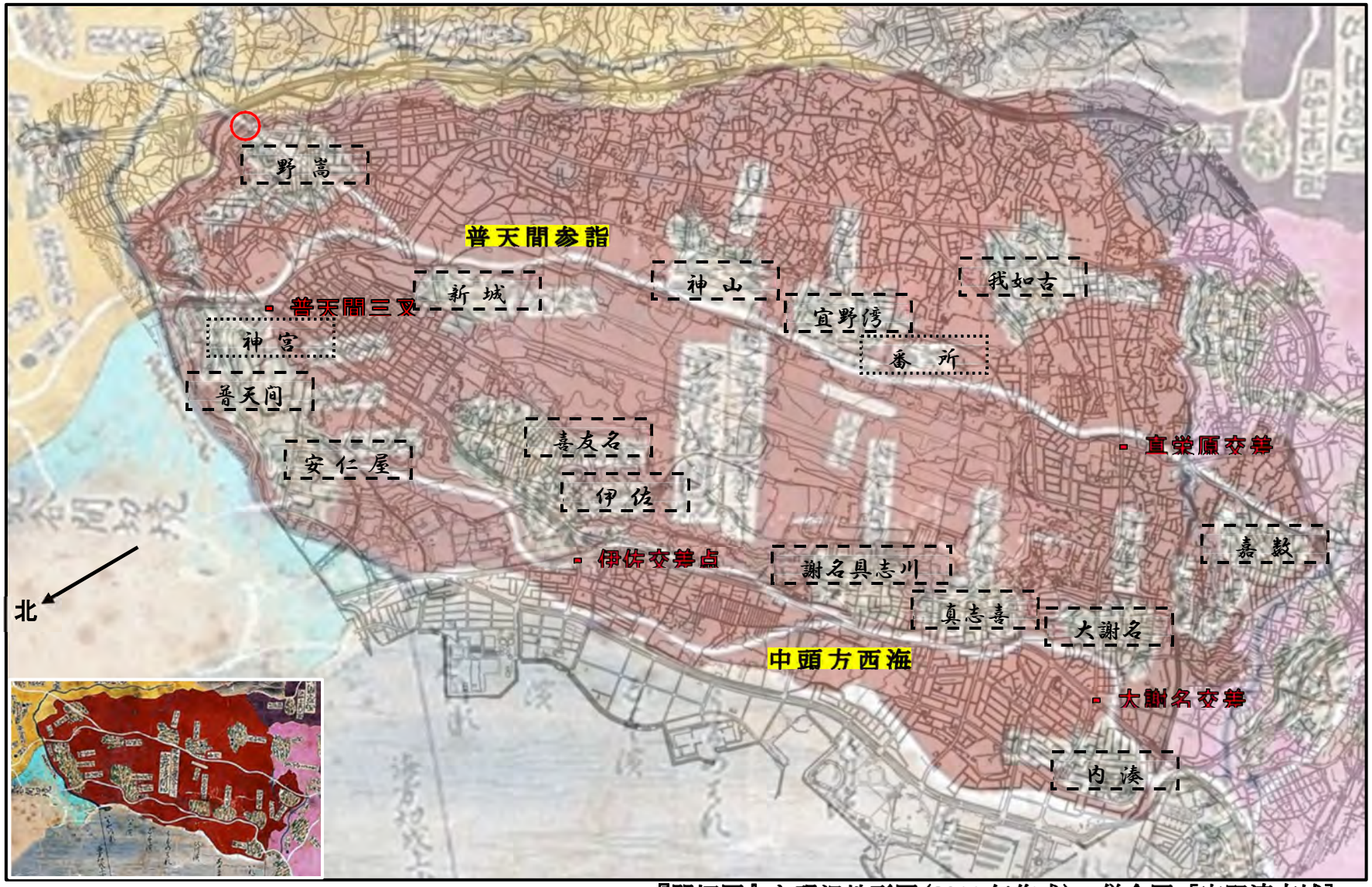
<沖縄県公文書館 所蔵>

戦後、本島北部等の収容所から帰村した野嵩の住民は地元には戻れたものの、他市町村出身者や、戦前の居住地に戻れない宜野湾村民が住んでおり、すぐに元の住居に戻る事はできませんでした。また、村民の多くが野嵩・普天間地区に集中していたため、野嵩の民家を借りて村役場にし、戦後復興に取り組みました。

シーソーで遊ぶ少年たち。後方には野嵩の民家木々が見えます。一九四五年五月

３．野嵩の「スディバナビラ」について！

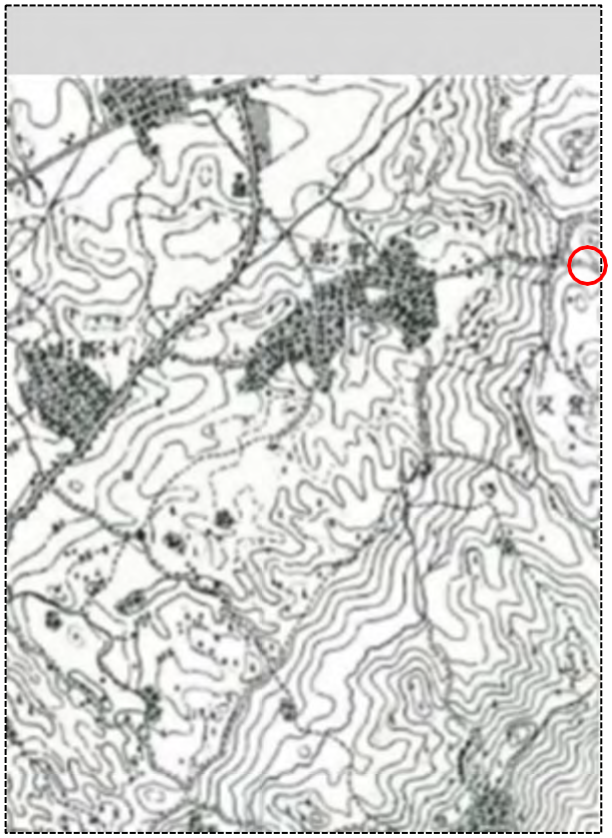
①　首里王府の「歴史の道＝宿道」！　＊近世：琉球王国時代（「江戸時代」にほぼ相当！）



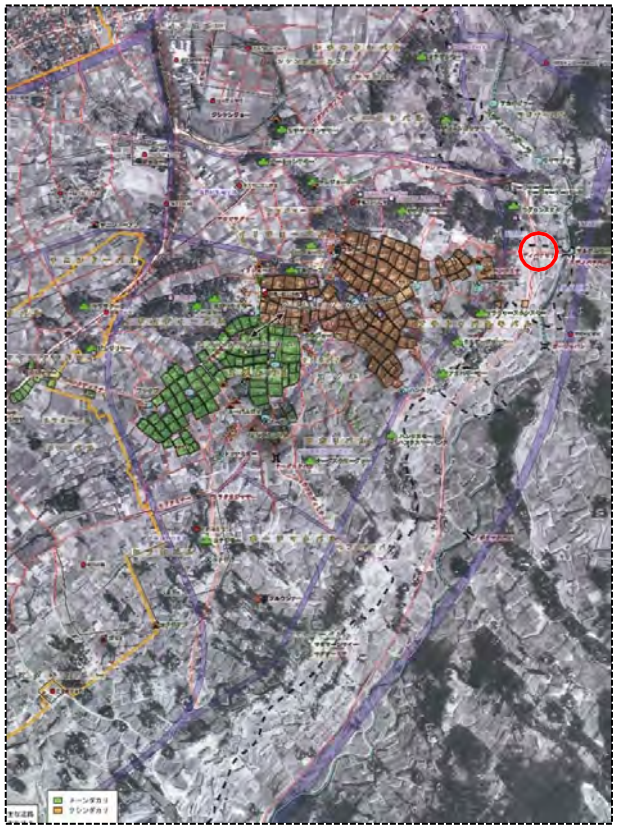
『間切図』と現況地形図（2011 年作成）の併合図［宜野湾市域］

② 地域住民の「生活の道＝里道」！ 近代：戦前（「明治，大正，昭和前期」に相当！）
現代：戦後（「昭和中・後期，平成，令和」に相当！）

『臨時沖縄県土地整理事務局作成
「明治土地台帳附属地図」（1903 年）』



『陸地測量部参謀本部発行地形図
（1921 年）』



『米軍撮影空中写真（1945 年 1・2 月）』

現　代